

平成 2 年 度
学 生 募 集 要 項
(付 大学案内)

金 沢 大 学

金沢大学学生募集要項

◎試験実施方式・日程

- 連続方式（A日程）で実施する学部

文学部，教育学部，法学部，
経済学部，医学部

- 分離・分割方式（前期・後期日程）で実施する学部

理学部，薬学部，工学部

（前期日程・A日程は2ページ，後期日程は40ページ以下を参照すること）

◎ 学内併願について

日程の異なった学部間の併願及び同一学部内学科間の併願を認める。

（注）「A日程」と「前期日程」，「B日程」と「後期日程」及び「同一日程間」の併願はできないので注意すること。

◎入学者選抜について

- 一 般 選 抜

- 特 別 選 抜（推薦入学）

実施する学部等は次のとおり

教育学部・中学校教員養成課程〔技術専攻〕

教育学部・高等学校教員養成課程（保健体育）

教育学部・スポーツ科学課程

経済学部・経済学科

（26～33ページを参照すること）

- 外国人特別学生（私費外国人留学生）の入学者選抜

（34～37ページを参照すること）

目 次

学 生 募 集 要 項

〔A日程・前期日程・推薦入学〕

1 募 集 人 員	2
2 出 願 資 格	4
3 入学者選抜方法等	4
(1) 入学者選抜方法	4
(2) 試験実施方式・日程	5
(3) 学内併願	5
(4) 第2志望	5
(5) 平成2年度入学者選抜における大学入 試センター試験の教科・科目等の利用 方法について	6
(6) 実技検査	9
(7) 配点	13
(8) 試験期日及び試験時間割	15
(9) 試験場	16
(10) 健康診断	16
4 出 願 期 間	17
5 出 願 手 続	17
(1) 出願方法	17
(2) 出願に必要な書類等	18
(3) 出願書類等の提出先	19
(4) 入学志願票等記入要領	19
6 身体に障害のある者の出願	23
7 受験票等の送付	23
8 合 格 者 発 表	23
9 入 学 手 続	24
10 特別選抜方法（推薦入学）	26
(1) 教育学部	26
(2) 経済学部	32
11 外国人特別学生（私費外国人留学生）の 入学者選抜	34
12 入学試験に関する問い合わせ	38
13 受験者の宿泊	38

〔後 期 日 程〕

1 募 集 人 員	40
2 出 願 資 格	40
3 入学者選抜方法等	41
(1) 入学者選抜方法	41
(2) 試験実施方式・日程	41
(3) 学内併願	41
(4) 2段階選抜	42
(5) 第2志望	42
(6) 平成2年度入学者選抜における大学入 試センター試験の教科・科目等の利用	

方法について……………43

(7) 配点	44
(8) 試験期日及び試験時間割	45
(9) 試験場	46
(10) 健康診断	46
4 出 願 期 間	47
5 出 願 手 続	47
(1) 出願方法	47
(2) 出願に必要な書類等	48
(3) 出願書類等の提出先	49
(4) 入学志願票等記入要領	49
6 身体に障害のある者の出願	51
7 受験票等の送付	51
8 合 格 者 発 表	51
9 入 学 手 続	52
10 入学試験に関する問い合わせ	53
11 受験者の宿泊	53

〔学 生 生 活〕

1 入学時に必要な経費	56
2 入学科免除に関する取扱い	56
3 授業料免除に関する取扱い	57
4 奨学制度について	59
5 学 生 寮	59
6 下 宿・貸 間	60
7 アルバイト	60
8 保健管理センター	61
9 学生健康保険組合	61
10 学生教育研究災害傷害保険	61
11 卒業後の進路	62

〔金 沢 大 学 案 内〕

本学の概要	64
教養部、学部及び大学院の概要	65
教 養 部	65
文 学 部	66
教 育 学 部	70
法 学 部	73
経 済 学 部	75
理 学 部	77
医 学 部	80
薬 学 部	81
工 学 部	83
大学院自然科学研究科	87
テレホンサービスについて	裏表紙

員 人 集 襄 上

[illegible]

1 募集人員

学 部	学 科 ・ 課 程	募集人員	備 考
文 学 部 (A日程)	行 動 科 学 科	50	
	史 学 科	45	
	文 学 科	60	
	計	155	
教育学部 (A日程)	小 学 校 教 員 養 成 課 程	100	中学校教員養成課程及び養護学校教員養成課程(中学部)の〔 〕内は、専攻教科を示す
	中 学 校 教 員 養 成 課 程 〔国語・社会・数学・理科・英語…各約6 音楽・美術・技術・家庭…各約4 保健・職業……………各約2〕	50	
	高等学校教員養成課程(保健体育)	20	
	聾 学 校 教 員 養 成 課 程	15	
	養護学校教員養成課程(小学部)	15	
	養護学校教員養成課程(中学部) 〔数学・美術・技術・家庭・保健〕	5	
	言語障害児教育教員養成課程	20	
	総 合 科 学 課 程 〔文化科学コース……………10 自然科学コース……………20 人間科学コース……………10〕	40	
	ス ポ ー ツ 科 学 課 程	30	
	計	295	
法 学 部 (A日程)	法 学 科	200	
経済学部 (A日程)	経 済 学 科	200	

学 部	学 科 ・ 課 程	募集人員	備 考
理 学 部 (前期日程)	数 学 科	30	
	物 理 学 科	30	
	化 学 科	30	
	生 物 学 科	20	
	地 学 科	20	
	計	130	
医 学 部 (A日程)	医 学 科	100	
薬 学 部 (前期日程)	薬 学 科	35	
	製 薬 化 学 科	35	
	計	70	
工 学 部 (前期日程)	土 木 建 設 工 学 科	93	工業教員養成課程の15名は、土木建設工学科(3名),機械システム工学科(4名),物質化学工学科(5名),電気・情報工学科(3名)に含めて募集する
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	134	
	物 質 化 学 工 学 科	100	
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	93	
	計	420	
合 計		1,570	

(注) 教育学部・中学校教員養成課程, 教育学部・高等学校教員養成課程(保健体育), 教育学部・スポーツ科学課程及び経済学部・経済学科には、特別選抜(推薦入学)による募集人員を含む。

2 出 願 資 格

次のいずれかに該当し、平成2年度大学入学者選抜大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の受験を要する教科（6～8ページ「3入学者選抜方法等の(5)平成2年度入学者選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について」）を全て受験した者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者及び平成2年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成2年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第69条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成2年3月31日までにこれに該当する見込みの者
 - ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成2年3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部大臣の指定したもの
 - ② 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成2年3月31日までに修了見込みの者
 - ③ 文部大臣の指定した者
主なものは、次のとおり
ア 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による小学校、中学校若しくは高等学校の教諭の普通免許状を有する者又は教育職員免許法施行法（昭和24年法律第148号）によりこれらの免許状を有するものとみなされた者（旧教員免許令（明治33年勅令第134号）に基づく旧実業学校教員検定に関する規程（大正11年文部省令第4号）による実習科目に関する限りの実業学校教員免許状を有する者を除く。）
イ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成2年3月31日までに18歳に達するもの
ウ 専修学校高等課程の修業年限3年以上の課程で文部大臣が別に指定したものを文部大臣が定める日以後に修了した者及び平成2年3月修了見込みの者
エ 運輸省組織令（昭和59年政令第175号）による海員学校の本科を卒業した者及び平成2年3月卒業見込みの者
 - ④ 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部大臣が行う大学入学資格検定に合格した者及び平成2年3月31日までに合格見込みの者で、平成2年3月31日までに18歳に達するもの

3 入学者選抜方法等

(1) 入学者選抜方法

入学者の選抜は、センター試験並びに本学が行う個別学力検査等、調査書の審査及び健康診断の結果を総合して行う。

- ① センター試験の受験を要する教科・科目等、個別学力検査等及び健康診断の詳細については、「(5)平成2年度入学者選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法につ

いて」から「(10)健康診断」までの各項をそれぞれ参照すること。

- ② センター試験及び個別学力検査等で、志望する学部・学科（課程）が課す教科・科目のすべてを受験しなければ、失格とする。

(2) 試験実施方式・日程

- ① 連続方式（A日程）で実施する学部

文学部、教育学部、法学部、経済学部、医学部の各学部

- ② 分離・分割方式（前期日程・後期日程）で実施する学部

理学部、薬学部、工学部の各学部（後期日程は、40ページ以下を参照すること）

(3) 学 内 併 願

日程の異なった学部間の併願及び同一学部内学科間の併願を認める。

（注）「A日程」と「前期日程」、「B日程」と「後期日程」及び「同一日程間」の併願はできないので注意すること。

(4) 第 2 志 望

教育学部の一部の課程及び薬学部の志願者については、次のとおり他の学科・課程を第2志望とすることができる。

- ① 教 育 学 部

高等学校教員養成課程（保健体育）及びスポーツ科学課程の志願者は、互いに他を第2志望とすることができる。（推薦入学については、第2志望を認めていないので注意すること。）

- ② 薬 学 部

薬学科及び製薬化学科の志願者は、互いに他を第2志望とすることができる。

(5) 平成2年度入学選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について

(その一)

利用する学部 (学科, 課程, 専攻等) 名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等	利用 する 対 象	入学志願者に 解答させる教科 ・科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入 試セン ター試 験の利 用方 法	そ の 他
文 学 部	(A 日 程)	行 動 学 科		国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(「数I」と「数II, 簿, 工から1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Iから1) 外(英, 独, 仏から1)	国(国I, 国II)		
		文 学 科		国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(数I) 理(物, 化, 生, 地学, 理Iから1) 外(英, 独, 仏から1)	外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1)		
教 育 学 部	(A 日 程)	小 学 校 教 員 養 成 課 程 小 学 校 教 員 養 成 課 程 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 (小 学 部) 言 語 障 害 児 教 育 教 員 養 成 課 程			国(国I, 国II) 数(数I, 代幾, 基解) 実技(音I, 美I, 体から1)	13ページ「(7)配を参照すること	1 センター試験の理科を1科目選択受験しなければならない学部・学科(課程)等において、複数の科目を受験した受験者の成績は、最高得点のものを本人とする
		中 学 校 教 員 養 成 課 程 (国 語)			国(国I, 国II) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1)		2 各教科と目数(複数)であっても試験時間内に解答させる
		中 学 校 教 員 養 成 課 程 (社 会)			国(国I, 国II) 社(日, 世, 地理から1) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1)		3 英II, 英II B, 英II Cの3科目を合わせて出題する。ドイツ語の出題範囲は、英語に準ずる
		中 学 校 教 員 養 成 課 程 (数 学) 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 (中 学 部) (数 学)	一般選抜の全部		数(数I, 代幾, 基解, 微積, 確統)		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程 (理 科) 中 学 校 教 員 養 成 課 程 (技 術) 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 (中 学 部) (技 術)			数(数I, 代幾, 基解, 微積, 確統) 理(物, 化, 生, 地学から1)		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程 (家 庭) 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 (中 学 部) (家 庭)			社(日, 世, 地理から1) 理(物, 化, 生, 地学から1)		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程 (保 健) 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 (中 学 部) (保 健)			理(生)外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1)		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程 (職 業)			理(物, 化, 生, 地学から1) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1)		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程 (英 語)			国(国I, 国II) 外(英「英II, 英II B, 英II C」)		
		中 学 校 教 員 養 成 課 程 (音 楽) 中 学 校 教 員 養 成 課 程 (美 術) 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 (中 学 部) (美 術)			実技(音「音I, 音II」) 実技(美「美I, 美II」)		

(その二)

利用する学部 (学科, 課程, 専攻等) 名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等	利用 する 対 象	入学志願者に 解答させる教科 ・科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入 試セン ター試 験の利 用方 法	そ の 他
教 育 学 部	(A 日 程)	高等学校教員養成課程(保健体育)			実技(体)		
		文 化 科 学 コ ー ス			国(国I, 国II) 社(日, 世, 地理から1) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1) の3教科から2教科を選択		
		自 然 科 学 コ ー ス			数(数I, 代幾, 基解) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1)		
		人 間 科 学 コ ー ス			国(国I, 国II) 数(数I, 代幾, 基解) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1)		
法 学 部	(A 日 程)	ス ポ ー ツ 科 学 課 程			実技(体)		
		法 学 科			国(国I, 国II) 外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1)		
経 済 学 部	(A 日 程)	経 済 学 科	一般選抜の全部		社(日, 世, 政経から1) 解答は論述式を中心とする	13ページ「(7)配を参照すること	1 センター試験の理科を1科目選択受験しなければならない学部・学科(課程)等において、複数の科目を受験した受験者の成績は、最高得点のものを本人とする
		数 学 科			数(数I, 代幾, 基解)及び外(英「英II, 英II B, 英II C」, 独から1)の2教科から1教科を選択		2 各教科と目数(複数)であっても試験時間内に解答させる
理 学 部	(前 期 日 程)	物 理 学 科			数(数I, 代幾, 基解, 微積, 確統) 理(物, 化, 生, 地学から1)		3 英II, 英II B, 英II Cの3科目を合わせて出題する。ドイツ語の出題範囲は、英語に準ずる
		化 学 科			数(数I, 代幾, 基解, 微積, 確統) 理(物, 化, 生, 地学から1)		
		生 物 学 科			国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(「数I」と「数II, 簿, 工から1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Iから1) 外(英, 独, 仏から1)		
		地 学 科			国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(「数I」と「数II, 簿, 工から1」) 理(物, 化, 生, 地学から1) 外(英, 独, 仏から1)		

(その三)

入学志願者に解答させる 教科・科目名等				利用する 選抜 対象	入学志願者に 解答させる教科 ・科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入 試セン ター試 験の利 用方法	そ の 他
医学部 (A日程)	医	学	科	一般選抜 の全部	国 社(倫、日、世、 地理、現社から1) 数(「数I」と「数 II、簿、工から1」) 理(物、化、生、 地学、理Iから1) 外(英、独、仏 から1)	数(数I、代幾、 基解、微積、 確統) 理(物、化) 外(英「英II、 英II B、英II C」、独から1)	13ページ 「(7)配 点」を参 照すること	1 センター 試験の理科 を1科目選 択受験しな ければなら ない学部・ 学科(課程) 等において、複数の 科目を受験 した受験者 の成績は、 最高得点の ものを本人 の成績とする 2 各教科と も受験科目 数が複数で あっても同 一試験時間 内に解答さ せる 3 英II、英 II B、英II Cの3科目 を合わせて 出題する。 ドイツ語の 出題範囲 は、英語に 準ずる
薬学部 (前期日程)	薬製	薬	学 化 学 科			理(物、化) 外(英「英II、 英II B、英II C」)		
工学部 (前期日程)	土 木 建 設 工 学 科					数(数I、代幾、 基解、微積、 確統) 理(物、化から1) 外(英「英II、 英II B、英II C」)、独から1)		
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科					数(数I、代幾、 基解、微積、 確統) 理(物、化、生、 地学、理Iから1) 外(英、独、仏 から1)		
	物 質 化 学 工 学 科					数(数I、代幾、 基解、微積、 確統) 理(物、化から1) 外(英「英II、 英II B、英II C」)、独から1)		
工学部 (前期日程)	電 気 ・ 情 報 工 学 科					数(数I、代幾、 基解、微積、 確統) 理(物、化) 外(英「英II、 英II B、英II C」)、独から1)		

(注) 1. 社、理、のうち「現社」及び「理I」を選択解答することができる者は、高等学校の普通科、理数科の卒業(見込み)者以外の者に限る。

2. 数、のうち「簿」「工」を選択解答することができる者は、高等学校において、「簿記会計I」・「簿記会計II」又は「工業数理」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限る。

備考 個別学力検査等の教科・科目等は、表中次のとおり略記した。

国 語……国I (国語I)、国II (国語II)

社 会……日 (日本史)、世 (世界史)、政経 (政治・経済)

数 学……数I (数学I)、代幾 (代数・幾何)、基解 (基礎解析)、微積 (微分・積分)、確統 (確率・統計)

理 科……物 (物理)、化 (化学)、生 (生物)

外国語……英 (英語) 一英II (英語II)、英II B (英語II B)、英II C (英語II C)

独 (ドイツ語)

実 技……体 (体育実技)、音I (音楽I)、音II (音楽II)、美I (美術I)、美II (美術II)

(6) 実 技 検 査

教育学部の一部の課程で実施する実技検査の範囲と方法は、次のとおりである。

- ① 小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(小学部)及び言語障害児教育教員養成課程の志願者は、次の「音楽実技・美術実技・体育実技」のうちから、一つを選んで受験しなければならない。

ア 音楽実技

弾き歌い

次の課題曲を、ピアノで伴奏しながら歌う。

春の小川 岡野 貞一 作曲 高野 辰之 作詞

- (注) 1 教育学部で指定した楽譜(教務係で交付)を使用すること。ただし、声域に合わない場合は、移調してもよい。

なお、指定楽譜の郵送を希望する者は、「春の小川」と明記し、返信用封筒(定形封筒で62円切手をはり付け、あて先を明記したもの)を同封の上、下記あてに申し込むこと。

〒920 金沢市丸の内1番1号

金沢大学教育学部教務係

- 2 演奏は、暗譜でもよいし、楽譜を使用してもよい。

イ 美術実技

鉛筆写生画

用具として、鉛筆、消しゴムを持参すること。

ウ 体育実技

次の検査を実施する。

- (a) 基礎的運動能力検査

○反復横跳び

- (b) 運動技能検査

○障害走

○バレーボール

○ハンドボール

- (注) 検査に適した服装及び運動靴を準備すること。

- ② 中学校教員養成課程音楽専攻の志願者は、次表のうち、ア、イ、ウ、エのいずれか一つの系列を選び、その○印を付してある種目を受験しなければならない。

系 列		ア	イ	ウ	エ
声 楽	(a) コールユーブンゲン	○	○	○	○
	(b) 歌 曲 A	○			
	(c) 歌 曲 B		○	○	○
	(d) 歌 曲 C	○			
器 楽	(a) ピアノ I	○		○	○
	(b) ピアノ II		○		
	(c) ピアノ III		○		
	(d) 管 楽 器			○	
	(e) 弦 楽 器				○

ア 声 楽

(a) コールユーブンゲン 第1巻 原書番号No.48～No.85のうちから当日指定する。

(b) 歌 曲 A 次の6曲のうちから任意の1曲

イタリア歌曲

- Lasciatemi morire
○ Se tu della mia morte

日本歌曲

- 北 秋 の
○ かやの木山

ドイツ歌曲

- An Chloë
○ Sonntag

(c) 歌 曲 B 次の6曲のうちから任意の1曲

イタリア歌曲

- Caro mio ben
○ Nel cor più non mi sento

日本歌曲

- 平 城 山
○ こ の 道

ドイツ歌曲

- Ich liebe dich
○ An die Musik

C. Monteverdi

A. Scarlatti

信 時 潔

山 田 耕 筈

W. A. Mozart

J. Brahms

G. Giordani

G. Paisiello

平 井 康三郎

山 田 耕 筈

L. v. Beethoven

F. Schubert

(d) 歌 曲 C

自由選択歌曲（日本歌曲も含む）を1曲

ただし、歌曲A、Bの12曲以外の曲で、約3分以内に歌い終わるもの。

(注) 1 コールユーブンゲンは固定ド唱法、移動ド唱法のどちらでもよい。また、移調してもよい。

2 歌曲A、B、Cの歌詞は、原語とする。

3 歌曲A、B、Cにおいては、調は自由とする。

各自使用の調の伴奏楽譜のコピーを、出願書類と同時に提出すること。

イ 器 楽

(a) ピ ア ノ I

J. S. Bach インヴェンションより 第7番 BWV778 ホ短調

(b) ピ ア ノ II

J. S. Bach シンフォニアより 第10番 BWV796 ト長調

(c) ピ ア ノ III

W. A. Mozart 又は L. v. Beethoven のソナタから任意の1曲の第1楽章又は終楽章。ただし、楽章全体が緩徐なものを除く。

(d) 管 楽 器

次の楽器のうち一つを選び、独奏曲又は練習曲から任意の1曲

1. フルート 2. オーボエ 3. クラリネット 4. ファゴット
5. トランペット 6. ホルン 7. トロンボーン 8. サキソフォン

(e) 弦 楽 器

次の楽器のうち一つを選び、独奏曲又は練習曲から任意の1曲

1. ヴァイオリン 2. ヴィオラ 3. チェロ 4. コントラバス

(注) 1 演奏は、ピアノ・管楽器・弦楽器とも繰り返しを行わないこと。

2 管楽器・弦楽器とも伴奏をつけない。

3 管楽器・弦楽器の受験者は、演奏する曲が多楽章の場合は、そのうちから任意の楽章一つを選んで弾く。ただし、楽章全体が緩徐なものを除く。

4 管楽器・弦楽器の受験者は、演奏する楽譜のコピーを出願書類と同時に提出すること。

5 管楽器・弦楽器の受験者は、原則として楽器を各自持参すること。ただし、コントラバスは持参しなくてもよい。

◎ 歌曲Cは、暗譜とする。それ以外は暗譜でもよいし、楽譜を使用してもよい。声楽・器楽とも楽譜を必要とするものは、各自持参すること。

- ③ 中学校教員養成課程美術専攻及び養護学校教員養成課程（中学部）美術専攻の志願者は、次の美術実技ア（午前）、美術実技イ（午後）を共に受験しなければならない。

ア 石膏像鉛筆デッサン

イ 色彩構成

用具として、鉛筆、消しゴム、ポスターカラー、パレット又は絵皿、図案筆を持参すること。

④ 高等学校教員養成課程（保健体育）及びスポーツ科学課程の志願者は、次の体育実技（ア、イ）を受験しなければならない。

ア 基礎的運動能力検査（持久走を含む。）

イ 運動技能検査

次の種目のうちから、一つを選んで受験すること。男女とも種目の選択は自由とする。

種 目 名
器械運動・陸上競技・柔 道・剣 道・ダンス・水泳（競泳）・バスケットボール・バレーボール・ハンドボール・サッカー・ラグビー・野 球・ソフトボール・硬式テニス・軟式テニス・卓 球・バトミントン

（注）それぞれの検査に適した各自の用具、服装及び運動靴を準備すること。

ただし、剣道防具については大学で準備するが、各自のものを使用してもよい。

(7) 配 点

センター試験（大試と略す）及び個別学力検査等（個別と略す）の配点は、次のとおり。

学 部 ・ 学 科（課 程）		配 点 区 分	教 科 等								合 計
			国語	社会	数学	理科	外国語	実技	小論文	面接	
文	行 動 科 学 科	大 試	200	200	200	200	200	—	—	—	1,000
		個 別	200	—	—	—	200	—	—	—	400
学	史 学 科	大 試	200	300	200	100	200	—	—	—	1,000
		個 別	300	—	—	—	300	—	—	—	600
部	文 学 科	大 試	200	100	100	100	200	—	—	—	700
		個 別	200	—	—	—	200	—	—	—	400
	小 学 校 教 員 養 成 課 程 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 言 語 障 害 児 教 育 教 員 養 成 課 程	大 試	200	100	200	100	200	—	—	—	800
		個 別	200	—	200	—	—	200	—	—	600
	中 学 校 教 員 養 成 課 程（国語）	大 試	200	200	100	100	200	—	—	—	800
		個 別	400	—	—	—	200	—	—	—	600
教	中 学 校 教 員 養 成 課 程（社会）	大 試	160	160	160	160	160	—	—	—	800
		個 別	200	200	—	—	200	—	—	—	600
	中 学 校 教 員 養 成 課 程（数学） 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程（中学部）（数学）	大 試	200	100	200	100	200	—	—	—	800
		個 別	—	—	400	—	—	—	—	—	400
育	中 学 校 教 員 養 成 課 程（理科、 技術）養 護 学 校 教 員 養 成 課 程（中学部）（技術）	大 試	160	160	160	160	160	—	—	—	800
		個 別	—	—	300	300	—	—	—	—	600
	中 学 校 教 員 養 成 課 程（家庭） 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程（中学部）（家庭）	大 試	200	100	200	100	200	—	—	—	800
		個 別	—	200	—	200	—	—	—	—	400
学	中 学 校 教 員 養 成 課 程（保健、 職業）養 護 学 校 教 員 養 成 課 程（中学部）（保健）	大 試	160	160	160	160	160	—	—	—	800
		個 別	—	—	—	200	200	—	—	—	400
	中 学 校 教 員 養 成 課 程（英語）	大 試	200	100	100	100	300	—	—	—	800
		個 別	200	—	—	—	300	—	—	—	500
部	中 学 校 教 員 養 成 課 程（音楽、 美術）養 護 学 校 教 員 養 成 課 程（中学部）（美術）	大 試	200	200	100	100	200	—	—	—	800
		個 別	—	—	—	—	—	400	—	—	400
	高 等 学 校 教 員 養 成 課 程（保健体育） ス ポ ー ツ 科 学 課 程	大 試	160	160	160	160	160	—	—	—	800
		個 別	—	—	—	—	—	400	—	—	400
	総 合 科 学 課 程（文化科学コース）	大 試	160	160	160	160	160	—	—	—	800
		個 別	*300	*300	—	—	*300	—	—	—	600

学 部 ・ 学 科 (課 程)				配 点 区 分	教 科 等							合 計	
					国語	社会	数学	理科	外国語	実技	小論文		面接
教育 学部	総 合	科 学 課 程 (自然科学コース)	程	大 試	160	160	160	160	160	—	—	—	800
				個 別	—	—	300	—	300	—	—	—	600
	総 合	科 学 課 程 (人間科学コース)	程	大 試	160	160	160	160	160	—	—	—	800
				個 別	*300	—	*300	—	*300	—	—	—	600
法 学 部				大 試	160	160	160	80	160	—	—	—	720
				個 別	300	—	—	—	300	—	—	—	600
経 済 学 部				大 試	200	100	200	100	200	—	—	—	800
				個 別	—	400	*200	—	*200	—	—	—	600
	数 学 科			大 試	200	100	200	100	200	—	—	—	800
				個 別	—	—	400	200	—	—	—	—	600
理 学 部	物 理 学 科			大 試	120	120	120	120	120	—	—	—	600
				個 別	—	—	300	300	—	—	—	—	600
学 部	化 学 科			大 試	50	50	100	100	100	—	—	—	400
				個 別	—	—	200	200	—	—	—	—	400
部	生 物 学 科			大 試	200	200	200	200	200	—	—	—	1,000
				個 別	—	—	300	300	—	—	—	—	600
	地 学 科			大 試	100	100	100	100	200	—	—	—	600
				個 別	—	—	200	200	—	—	—	—	400
医 学 部				大 試	100	50	100	50	100	—	—	—	400
				個 別	—	—	200	200	200	—	—	—	600
薬 学 部				大 試	200	100	200	100	200	—	—	—	800
				個 別	—	—	—	400	200	—	—	—	600
工 学 部				大 試	100	50	100	50	100	—	—	—	400
				個 別	—	—	200	150	150	—	—	—	500

- (注) 1. 教育学部・総合科学課程(文化科学コース)の*印は、国語(300点)、社会(300点)及び外国語(300点)の3教科から2教科選択であることを示す。
2. 教育学部・総合科学課程(人間科学コース)の*印は、国語(300点)、数学(300点)及び外国語(300点)の3教科から2教科選択であることを示す。
3. 経済学部の*印は、数学(200点)又は外国語(200点)のいずれかの選択であることを示す。

(8) 試験期日及び試験時間割

月日(曜)		2月25日(日)			2月26日(月)	
学部・学科(課程)						
文 学 部		外国語 9:20~10:40	国 語 11:30~12:50			
教 育 学 部	小学校教員養成課程 聾学校教員養成課程 養護学校教員養成課程(小学部) 言語障害児教育教員養成課程			国 語 11:30~12:50	数 学 14:40~16:10	実 技 音楽 9:30~ 美術 9:30~ 11:30 体育 9:30~
	中学校教員養成課程	外国語 9:20~10:40 (国語・社会・保健・職業・英語)	国 語 11:30~12:50 (国語・社会・英語)	社 会 14:40~15:50 (社会・家庭)	数 学 14:40~16:40 (数学・理科・技術)	(注) 教育学部の〔 〕内は、専攻教科を示す。
			理 科 11:30~12:30 (理科・技術・家庭・保健・職業)			
		実 技 音楽〔音楽〕 9:30~ 美術〔美術〕 { 9:20~12:20 13:20~16:20 }				
	養護学校教員養成課程(中学部)	外国語 9:20~10:40 (保健)	理 科 11:30~12:30 (技術・家庭・保健)	社 会 14:40~15:50 (家庭)	数 学 14:40~16:40 (数学・技術)	
		実 技 美術〔美術〕		{ 9:20~12:20 13:20~16:20 }		
	高等学校教員養成課程(保健体育) スポーツ科学課程	実 技 体 育 9:30~				
総合科学課程	文化科学コース	外国語(選択) 9:20~10:40	国 語(選択) 11:30~12:50	社 会(選択) 14:40~15:50		
	自然科学コース	外国語 9:20~10:40			数 学 14:40~16:10	
	人間科学コース	外国語(選択) 9:20~10:40	国 語(選択) 11:30~12:50	数 学(選択) 14:40~16:10		
法 学 部		外国語 9:20~10:40	国 語 11:30~12:50			
経 済 学 部		外国語(選択) 9:20~10:40	社 会 11:30~13:00	数 学(選択) 14:40~16:10		
理 学 部				理 科 11:30~13:10	数 学 14:40~16:40	
医 学 部		外国語 9:20~10:40	理 科 11:30~13:30	数 学 14:40~16:40		
薬 学 部		外国語 9:20~10:40	理 科 11:30~13:30			
工 学 部		外国語 9:20~10:40	理 科 11:30~13:10	数 学 14:40~16:40		

(9) 試験場

志 願 学 部	試 験 場	所 在 地
文 学 部	文 学 部	金沢市角間町
教 育 学 部	教 育 学 部	金沢市丸の内1番1号
法 学 部	法 学 部	金沢市角間町
経 済 学 部	経 済 学 部	金沢市角間町
理 学 部	理 学 部	金沢市丸の内1番1号
医 学 部	医 学 部	金沢市宝町13番1号
薬 学 部	薬 学 部	
工 学 部	工 学 部	金沢市小立野2丁目40番20号

(注) 志願者数によっては、試験場の変更(本学教養部及び金沢市内の公立高等学校等)もあり得るので**確定試験場及び試験場案内は、2月5日(月)受験票送付の際に通知する。**

(10) 健康診断

- ① 調査書の「健康の状況」又は健康診断書によって審査し、必要と認める者については、精密検査を2月25日(日)午後本学で実施する。
- ② 精密検査の該当者には、実施に関する事項を2月25日の学力検査及び実技検査終了時までに通知する。
- ③ 精密検査の該当者が受検しない場合は、失格とする。
- ④ 調査書又は健康診断書に記載された事項が、入学後本学で実施する健康診断の結果と著しく相違し、修学に必要な条件を満たしていないことが判明した場合には、入学後であっても入学許可を取り消すことがある。
- ⑤ 学部・学科(課程)によっては、修学に耐えないと認められる疾病並びに視力障害、聴力障害、言語障害及び運動機能障害(肢体不自由)等のある者は、入学を許可しないことがある。

ア 視力障害により入学を許可しない学部・学科(課程)は、次のとおりである。

学 部	学 科 ・ 課 程	障 害 の 程 度 等
教育学部	小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 言語障害児教育教員養成課程 総合科学課程	次のいずれかに該当するもの 1. 両眼の視力が0.3未満のもの(両眼の矯正視力による。) 2. 視力以外の視機能障害が高度のものうち、点字による教育を必要とするもの 3. 将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの
	高等学校教員養成課程 (保健体育) スポーツ科学課程	両眼の視力が0.5未満のもの(両眼の矯正視力による。)
理学部	全 学 科	次のいずれかに該当するもの 1. 両眼の視力が0.3未満のもの(両眼の矯正視力による。) 2. 視力以外の視機能障害が高度のものうち、点字による教育を必要とするもの 3. 将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの
医学部	医 学 科	両眼の視力が0.5未満のもの(両眼の矯正視力による。)
薬学部	全 学 科	次のいずれかに該当するもの 1. 両眼の視力が0.3未満のもの(両眼の矯正視力による。) 2. 視力以外の視機能障害が高度のものうち、点字による教育を必要とするもの 3. 将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの
工学部	全 学 科	次のいずれかに該当するもの 1. 両眼の視力が0.3未満のもの(両眼の矯正視力による。) 2. 視力以外の視機能障害が高度のものうち、点字による教育を必要とするもの 3. 将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの

イ 次の学部・学科(課程)は、色覚障害を合否判定の基準とはしないが、高度の異常は修学上支障を来すことがある。

教育学部	中学校教員養成課程(理科)
理学部	化学科、地学科
医学部	医学科
薬学部	薬学科、製薬化学科
工学部	土木建設工学科、物質化学工学科

4 出願期間

平成2年1月22日(月)～平成2年1月31日(水)

受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午まで受け付ける。

なお、持参する場合は、平成2年1月31日(水)午後5時まで、郵送する場合は、平成2年1月29日(月)以前の発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する。

◎出願状況の情報提供について

各学部・学科(課程)の出願状況(志願者数及び倍率)について、次の期間中テレフォンスービスを行う。

平成2年1月22日(月)午後7時頃～2月2日(金)

電話番号 0762 (21) 7700 (通話料金は有料)

5 出願手続

(1) 出願方法

志願者は、(2)の「出願に必要な書類等」(A日程・前期日程・推薦用)を一括して、本学所定の封筒に入れ、出願期間内に志願する学部提出すること。

なお、出身高等学校等で取りまとめる場合は、志願者毎に本学所定の封筒に入れて提出すること。

(後期日程の出願用紙・封筒を使用してはならない。)

〔出願に当たっての注意事項〕

- ① センター試験の受験票及び成績請求票の再発行を受けた場合は、再発行された受験票及び成績請求票のみが有効である。この場合は、再発行された成績請求票により出願しなければ、失格とする。
- ② 他の国公立大学(私立産業医科大学を含む)・学部の推薦入学合格者は、本学を受験しても入学許可は得られない(当該大学・学部の定める入学辞退手続により入学辞退し、その許可を得た者を除く。)
- ③ 出願書類に不備がある場合は、受理しないことがある。
- ④ 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない。
- ⑤ 出願書類に不正な事実があった場合は、入学許可を取り消すことがある。

(2) 出願に必要な書類等

① 入学志願票 志願コード票 受験票 写真票	本要項に添付の用紙による 「 A 」 前 平成2センター試験成績請求票A日程・前期日程用」及び写真2枚をそれぞれ所定の欄にはり付けること (「(4)入学志願票等記入要領」を参照すること)
② 検定料	13,000円、郵便為替(普通為替に限る) 郵送による場合は、普通為替を出願書類に同封して提出すること なお、この普通為替の受取人指定欄、領収者欄等には、何も記入してはいけない
③ 検定料納付及び領収証書用紙	本要項に添付の用紙による (切手を貼付する必要はない)
④ 調査書	文部省所定の様式により出身学校長が作成したもの (「出欠の記録」欄で長期の欠席があった場合は、必ず備考欄にその診断名等を記入すること。「健康の状況」欄の記入にあたっては、異常がない場合又は特に記入する事項がない場合はその旨を記入すること。眼鏡等を使用している者については、矯正視力を必ず記入すること)
⑤ 健康診断書	昭和63年3月以前の高等学校卒業生及び大学入学資格検定合格者等は、本要項に添付の用紙により視力、聴力、結核並びにその他の疾病及び異常について医師が証明し、厳封したもの (平成元年3月高等学校卒業生及び平成2年3月卒業見込みの者は、提出する必要はない)
⑥ 返送用封筒	受験票等送付用で、本要項に添付の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手(272円)をはり付けたもの
⑦ 合格者名簿送付申込書	この申込は任意であるが、志願者は申し込むことが望ましい(本学の合格発表は学内掲示のみとする)

教育学部の志願者について、上記のほか次の書類も提出すること。

⑧ 教育学部写真票	小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(小学部)及び言語障害児教育教員養成課程の志願者 本要項に添付の用紙による。写真は、所定の欄にはり付けること(写真は①の受験票・写真票と合わせて3枚)
⑨ 選択系列・曲目届	中学校教員養成課程〔音楽専攻〕の志願者 本要項に添付の用紙による
⑩ 選択種目届	高等学校教員養成課程(保健体育)及びスポーツ科学課程の志願者 本要項に添付の用紙による

- (注) 1 外国人は、上記書類のほか、外国人登録済証明書(在留資格が明示されたもの)を添付すること。
- 2 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の修了者は、修了証明書及び成績証明書をもって調査書に代える。
- 3 文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了者は、成績証明書をもって調査書に代える。
- 4 大学入学資格検定試験の合格者は、合格証明書及び合格成績証明書をもって調査書に代える。
- 5 調査書の提出困難な学校(廃校、被災等)の出身者は、その旨を証明した書類をもって調査書に代える。

(3) 出願書類等の提出先

志願学部	提出先
文学部	文学部・学生係 〒920-11 金沢市角間町
教育学部	教育学部・教務係 〒920 金沢市丸の内1番1号
法学部	法学部・学生係 〒920-11 金沢市角間町
経済学部	経済学部・学生係 〒920-11 金沢市角間町
理学部	理学部・学生係 〒920 金沢市丸の内1番1号
医学部	医学部・教務係 〒920 金沢市宝町13番1号
薬学部	薬学部・学生係 〒920 金沢市宝町13番1号
工学部	工学部・学生係 〒920 金沢市小立野2丁目40番20号

(4) 入学志願票等記入要領

入学志願票・志願コード票・受験票・写真票の「※」印欄を除き、以下の指示に従って該当事項を正確に記入すること。

① 入学志願票

(注意すべき項目)

志望学部・学科(課程)	◆ 教育学部中学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(中学部)及び総合科学課程を志望するものは、専攻教科・コース欄に志望の専攻教科・コース名を記入すること
第2志望	◆ 教育学部・高等学校教員養成課程(保健体育)及びスポーツ科学課程の志願者で、他の課程を第2志望とする場合は、当該第2志望の課程名(高等学校又はスポーツ科学)を記入すること ◆ 薬学部志願者で、他の学科を第2志望とする場合は、当該第2志望の学科名を記入すること
工業教員養成課程	◆ 工学部志願者で、工業教員養成課程を志望する場合は、「有」の文字を○で囲むこと
出願資格	◆ 18歳以前に大学入学資格検定試験に合格した者は、18歳に達した元号の年月、また、18歳以降に合格した者は、合格した元号の年月を記入すること
選択受験科目	◆ 選択して受験する科目を課している学部・学科(課程・専攻)の志願者は、選択する科目のコードを○で囲むこと なお、次表「学部・学科(課程)別選択受験科目一覧表」以外の学部・学科(課程)については、選択受験科目はないので、記入する必要はない

学部・学科(課程)別選択受験科目一覧

学 部 ・ 学 科 (課 程)		科 目 及 び 科 目 コ ー ド	
文 学 部		外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目	
教 育 学 部	小 学 校 教 員 養 成 課 程 聾 学 校 教 員 養 成 課 程 養護学校教員養成課程（小学部） 言語障害児教育教員養成課程	実 技（音楽12, 美術13, 体育14）から1科目	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程 〔国語〕	外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程 〔社会〕	社 会（日本史01, 世界史02, 地理03）から1科目 外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程 〔理科・技術〕 養護学校教員養成課程（中学部） 〔技術〕	理 科（物理06, 化学07, 生物08, 地学09）から1科目	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程 〔家庭〕 養護学校教員養成課程（中学部） 〔家庭〕	社 会（日本史01, 世界史02, 地理03）から1科目 理 科（物理06, 化学07, 生物08, 地学09）から1科目	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程 〔保健〕 養護学校教員養成課程（中学部） 〔保健〕	外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程 〔職業〕	理 科（物理06, 化学07, 生物08, 地学09）から1科目 外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目	
	部	文化科学コース	〔国語15 社 会（日本史01, 世界史02, 地理03）から1科目 外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目 から2教科を選択する
			外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目
		総合科学課程	自然科学コース
	部	人間科学コース	〔国語15 数学05 外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目 から2教科を選択する
			外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目
法 学 部		外国語（英語10, ドイツ語11）から1科目	
経 済 学 部		社 会（日本史01, 世界史02, 政治・経済04）から1科目 （数学05, 外国語・英語10, 外国語・ドイツ語11）から1科目	
理学部	数 学 科, 生 物 学 科, 地 学 科	理 科（物理06, 化学07, 生物08, 地学09）から1科目	

学部・学科(課程)		科目及び科目コード
医 学 部		外国語(英語10, ドイツ語11) から1科目
工 学 部	土木建設工学科 物質化学工学科	理 科(物理06, 化学07) から1科目 外国語(英語10, ドイツ語11) から1科目
	機械システム工学科 電気・情報工学科	外国語(英語10, ドイツ語11) から1科目

(注) 上表以外の学部・学科(課程)については, 選択受験科目はないので, 記入する必要はない。

② 志願コード票

次の票の説明に従ってコード等を記入すること。

区 分		説 明	コード等記入例		
②学部・学科（課程）等		次の学部・学科（課程）等コード表により記入すること 〔学部・学科（課程）等コード表〕			
学 部・学 科（課 程）		コード	学部・学科（課程）		コード
文 学 部	行 動 科 学 科	1 1 1	法 学 部 ・ 法 学 科		1 5 1
	史 学 科	1 2 1			
	文 学 科	1 3 1			
教 育 学 部	小 学 校 教 員 養 成 課 程	7 0 1	経 済 学 部	英 語 選 択 者	1 7 1
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔国語〕	7 1 1		数 学 選 択 者	1 7 3
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔社会〕	7 2 1	理 学 部		数 学 科
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔数学〕	7 3 1		物 理 学 科	3 2 4
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔理科〕	7 4 1	学 部	化 学 科	3 3 4
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔英語〕	7 5 1		生 物 学 科	3 4 4
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔音楽〕	7 6 1	地 学 科	3 5 4	
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔美術〕	7 7 1		医 学 部 ・ 医 学 科	4 1 1
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔技術〕	7 8 1	薬 学 部	薬 学 科	5 1 4
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔家庭〕	7 9 1			製 薬 化 学 科
学 部	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔保健〕	8 0 1	工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	6 1 4
	中 学 校 教 員 養 成 課 程〔職業〕	8 1 1		機 械 シ ス テ ム 工 学 科	6 2 4
	高等学校教員養成課程（保健体育）	8 2 1	物 質 化 学 工 学 科	6 3 4	
	聾 学 校 教 員 養 成 課 程	8 3 1		電 気 ・ 情 報 工 学 科	6 4 4
	養護学校教員養成課程（小学部）	8 4 1			
	養護学校教員養成課程（中学部）〔数学〕	9 0 1			
	養護学校教員養成課程（中学部）〔美術〕	9 1 1			
	養護学校教員養成課程（中学部）〔技術〕	9 2 1			
	養護学校教員養成課程（中学部）〔家庭〕	9 3 1			
	養護学校教員養成課程（中学部）〔保健〕	9 4 1			
部	言語障害児教育教員養成課程	9 5 1			
	ス ポ ー ツ 科 学 課 程	9 6 1			
	総合科学課程（文化科学コース）	9 7 1			
	総合科学課程（自然科学コース）	9 8 1			
	総合科学課程（人間科学コース）	9 9 1			

③ 成績請求票	大学入試センターから交付された「 A 前」平成2センター試験成績請求票 A日程・前期日程用」をはり付けること なお、再交付を受けた場合は、再交付された成績請求票のみ有効である											
④ 第2志望	教育学部	◆高等学校教員養成課程（保健体育）の志願者で、スポーツ科学課程を第2志望とするもの ⇨ <table border="1"><tr><td>9</td><td>6</td></tr></table>	9	6								
		9	6									
	◆スポーツ科学課程の志願者で、高等学校教員養成課程（保健体育）を第2志望とするもの ⇨ <table border="1"><tr><td>8</td><td>2</td></tr></table>	8	2									
	8	2										
薬学部	◆薬学科の志願者で、製薬化学科を第2志望とするもの ⇨ <table border="1"><tr><td>5</td><td>5</td></tr></table>	5	5									
	5	5										
◆製薬化学科の志願者で、薬学科を第2志望とするもの ⇨ <table border="1"><tr><td>5</td><td>1</td></tr></table>	5	1										
5	1											
〔右表の学部・学科（課程）以外は記入を要しない〕												
⑤ 生年月日	数字が1ケタの場合は、あたまたに0を記入すること 例 昭和9年1月7日 <table border="1"><tr><td>0</td><td>9</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>7</td></tr></table>		0	9	0	1	0	7				
0	9	0	1	0	7							
⑥ 性別	男 女 ⇨ <table border="1"><tr><td>1</td></tr></table> ⇨ <table border="1"><tr><td>2</td></tr></table>		1	2								
1												
2												
⑦ 資格取得年	高等学校卒業見込み又は卒業の元号年を記入する 昭和63年 <table border="1"><tr><td>S</td><td>6</td><td>3</td></tr></table> 平成元年 <table border="1"><tr><td>H</td><td>0</td><td>1</td></tr></table>		S	6	3	H	0	1				
S	6	3										
H	0	1										
⑧ 選択受験科目	入学志願票で○印を付したコードを記入すること 1科目の場合はA欄に、 2科目の場合はA、Bの両欄に記入する (注) 学部・学科（課程）別選択受験科目一覧（20～21ページ）の該当者のみ記入すること 1科目 <table border="1"><tr><td>A</td><td>B</td></tr><tr><td>1</td><td>0</td></tr></table> 2科目 <table border="1"><tr><td>A</td><td>B</td></tr><tr><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>1</td><td>0</td></tr></table>		A	B	1	0	A	B	0	1	1	0
A	B											
1	0											
A	B											
0	1											
1	0											
⑨ 工業教員養成課程	工学部志願者で、入学志願票の「有」を○で囲んだ者のみ記入すること <table border="1"><tr><td>1</td></tr></table>		1									
1												

6 身体に障害のある者の出願

身体に障害のある入学志願者で、受験上及び修学上、特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、下記の事項を記載した文書（様式は問わない。）及び医師の診断書を添えて、学生部入学主幹付入学試験係へ提出し、相談すること。

- (1) 志望学部・学科（課程・専攻）
- (2) 障害の種類・程度
- (3) 受験上、特別な配慮を希望する事項
- (4) 修学上、特別な配慮を希望する事項
- (5) 高等学校でとられていた特別措置
- (6) 日常生活の状況
- (7) その他参考となる事項

7 受験票等の送付

受験票は、確定試験場・試験場案内及び受験者心得とともに出願期間終了後の2月5日（月）に志願者あてに発送する。

（注）この受験票は、センター試験受験票とともに、入学試験の際に提示しなければならない。
また、入学手続の際は、提出及び提示しなければならないので紛失、汚損等のないように特に注意すること。

8 合格者発表

合格者の受験番号及び氏名は、前期日程及びA日程共に
3月10日（土）午前10時（予定）
に本学教養部（金沢市丸の内1番1号）前掲示場で発表する。

なお、本学における合格発表は掲示のみとし、郵便等による合格通知は行わない。
ただし、希望者には、電子郵便により学部毎の合格者名簿送付の取扱いを行うので、志願者は申し込むことが望ましい。

〔申し込んだ志願者には、3月10日の午後7時頃までに申込書の宛先へ配達される予定であるが、万一未着の場合は、最寄りの配達局（若しくは、金沢中央郵便局第一郵便課 ☎0762-24-3811）まで問い合わせること。〕

- （注）
- 1 合格発表は、原則としてセンター試験受験の際の氏名で発表する。
 - 2 電話その他による問い合わせには応じない。
 - 3 入学手続きの結果、欠員が生じた場合は、3月28日以降に「追加合格」を実施することがある。

9 入学手続

合格者の入学手続は、次のとおり行う。

(前期日程)

- (1) 入学手続きは、必ず来学して行うこと（郵送による入学手続きは、受け付けない）。
- (2) 入学手続期間 平成2年3月12日（月）、平成2年3月13日（火）
- (3) 提出書類 本学受験票、センター試験受験票（提示）
- (4) 納付金の納入
 - ① 入 学 料 206,000円 郵便為替（普通為替に限る）
納入期間 平成2年3月12日（月）、3月13日（火）
 - ② 授業料（前期分）169,800円 郵便為替（普通為替に限る）
納入期間 平成2年3月12日（月）、3月13日（火）
なお、入学料と授業料（前期分）を同時に納入する場合は、1枚の郵便為替とすること。
郵便為替の受取人指定欄、領収者欄等には何も記入してはいけない。
(注) 1 授業料（前期分）を上記納入期間に納入しないときは、平成2年4月2日から平成2年4月28日までに納入することとなる。
2 入学手続終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申し出により当該授業料相当額を返還する。
- (5) 入学手続場所 本学 学生会館（金沢市丸の内1番1号）
- (6) 留意事項
 - ① 入学手続後は、一切の変更を認めない。
 - ② 入学手続締切期限までに入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱う。
 - ③ 他の国公立大学（私立産業医科大学を含む）に入学手続を行った者は、これを辞退して本学に入学手続を行うことはできない。

(注) その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については「学生生活」の項（56ページ以下）の該当事項を参照のこと。

(A 日 程)

- (1) 入学手続きは、必ず来学して行うこと（郵送による入学手続きは、受け付けない）。
- (2) 入学手続期間 平成2年3月26日（月）、平成2年3月27日（火）
- (3) 提出書類 本学受験票、センター試験受験票（提示）
- (4) 納付金の納入
 - ① 入 学 料 206,000円 郵便為替（普通為替に限る）
納入期間 平成2年3月26日（月）、3月27日（火）

- ② 授業料（前期分）169,800円 郵便為替（普通為替に限る）
納入期間 平成2年3月26日（月）、3月27日（火）

なお、入学料と授業料（前期分）を同時に納入する場合は、1枚の郵便為替とすること。
郵便為替の受取人指定欄、領収者欄等には何も記入してはいけない。

(注) 1 授業料（前期分）を上記納入期間に納入しないときは、平成2年4月2日から平成2年4月28日までに納入することとなる。

2 入学手続終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申し出により当該授業料相当額を返還する。

- (5) 入学手続場所 本学 学生会館（金沢市丸の内1番1号）

(6) 留意事項

- ① 入学手続後は、一切の変更を認めない。
- ② 入学手続締切期限までに入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱う。
- ③ 他の国公立大学（私立産業医科大学を含む）に入学手続を行った者は、これを辞退して本学に入学手続を行うことはできない。

(注) その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については「学生生活」の項（56ページ以下）の該当事項を参照のこと。

10 特別選抜方法（推薦入学）

実施学部・学科名	教育学部・中学校教員養成課程〔技術〕
募 集 人 員	2 名 以 内
選 抜 期 日	平成元年12月8日（金） 小 論 文——9：00～10：20 小 課 題——10：40～12：10 面 接——13：00～ （注）健康診断 調査書による審査の結果特に必要があると認めた者については、面接終了後、本学で精密検査を行う
選 抜 方 法	1 センター試験及び個別学力検査を免除する 2 選考は、小論文*1、小課題*2、面接、調査書、推薦書及び健康診断の結果を総合して行う *1 小論文——英文の資料を与え、それに関して出題された論題について、800字程度で論述させる。辞書は貸与する *2 小課題——出題された工業に関する科目の課題から1つを選び、図面、文章等で解答させる
出 願 期 間	平成元年11月24日（金）～平成元年11月30日（木） 受付時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午までとし、日曜日は受け付けない。持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと
出 願 要 件	1 平成2年3月高等学校の工業に関する学科を卒業見込みの者で、かつ、高等学校における学習成績概評がA段階以上に該当し、中学校の技術科教育に熱意を有し、高等学校長が責任を持って推薦できる者とする 2 推薦は、1校に1名とする
そ の 他	1 出願手続 （1）出願方法 （2）の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、教育学部教務係へ提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の出願用封筒の「推薦入学」を赤○で囲むこと 出 願 先 〒920 金沢市丸の内1番1号 金沢大学教育学部教務係 （2）提出書類 ① 一般の入学志願者が提出すべき出願に必要な書類等（本募集要項18ページ。ただし、入学志願票及び志願コード票中、選択受験科目及びセンター試験成績請求票については除く） ② 「推薦書」（所定の用紙で高等学校長が作成したもの） ③ 「志願理由書」（所定の用紙で志願者本人が作成したもの） 「推薦書」、「志願理由書」の用紙は、高等学校長からの請求により教育学部教務係で交付する。郵送を希望する場合は、返信用封筒（角型3号）に360円切手をはり付けたものを送付すること 2 選考の結果の通知 選考の結果は、平成元年12月15日（金）付けで高等学校長を通じて受験者に通知する 3 合格者発表 平成2年1月19日（金）午後4時（予定）に教育学部掲示場で行う 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送付する

実施学部・学科名	教育学部・中学校教員養成課程〔技術〕
そ の 他	4 入学手続 （1）入学手続期間 平成2年2月14日（水）～2月15日（木） （2）提出書類 本学受験票等 （3）納付金の納入 ①入 学 料 206,000円 納入期間 平成2年2月14日（水）～2月15日（木） ②授 業 料（前期分） 169,800円 納入期間 平成2年2月14日（水）～2月15日（木） （注）1 授業料（前期分）を上記納入期間に納入しないときは、平成2年4月2日から4月28日までに納入することとなる 2 入学手続き終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申し出により当該授業料相当額を返還する （4）入学手続場所 本学 学生部入学主幹付入学試験係（金沢市丸の内1番1号） （5）留意事項 ① 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られない（ただし、本学学長の推薦入学辞退許可を得た場合を除く） ② 入学手続き後は、一切の変更を認めない 入学辞退する場合は、高等学校長と連署で2月15日までに推薦入学辞退願（所定の用紙）により願い出て、学長の推薦入学辞退許可を得なければならない （注）その他入学時に必要な経費並びに入学科免除制度及び授業料免除制度については、「学生生活」の項（56ページ以下）の該当事項を参照のこと 5 個別学力検査の受験についての取扱い 選考の結果、合格しなかった者のうち、センター試験の5教科6科目を受験した者で、次の要領により再出願を行った者についてのみ、一般の入学志願者と同様に個別学力検査を受験することができる （1）出願期間 平成2年1月22日（月）～1月31日（水） 受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午まで受け付ける なお、持参する場合は、平成2年1月31日（水）午後5時まで、郵送する場合は、平成2年1月29日（月）以前の発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する （2）提出書類 本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ、出願期間内に教育学部教務係に提出すること。なお、所定の用紙等は、選考結果通知とともに送付する ①教育学部志願書—所定の用紙により、選択受験科目を届け出ること ②センター試験成績請求票—「A Ⅲ 平成2 センター試験成績請求票 A日程・前期日程用」 ③受験票—推薦入学試験の際に発行した受験票 ④検定料—13,000円、郵便為替（普通為替に限る） ⑤検定料納付及び領収証書用紙—所定の用紙による ⑥返送用封筒—受験票等送付用で、所定の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手（272円）をはり付けたもの （3）留意事項 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない

実施学部・学科名	教育学部・高等学校教員養成課程（保健体育）
募集人員	4名以内
選抜期日	平成2年2月5日（月） 小論文——10：00～11：20 面接——13：00～ （注）健康診断 調査書による審査の結果特に必要があると認めた者については、面接終了後、本学で精密検査を行う
選抜方法	選考は、センター試験、小論文、面接、調査書、推薦書及び健康診断の結果を総合して行う 小論文—体育、スポーツに関することを論述させる
出願期間	平成元年12月18日（月）～平成元年12月22日（金） 受付時間は、午前9時から午後5時までとする。持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと
出願要件	1 平成2年3月高等学校を卒業見込みの者で、センター試験の5教科6科目を受験し、高等学校における学習成績概評がA段階以上に該当し、体育・スポーツの分野で特に優れた能力を持つ者で、かつ、人物に優れ健康で中学校又は高等学校教育に熱意があり、高等学校長が責任を持って推薦できる者とする 2 推薦は、1校に1名とする
その他	1 出願手続 (1) 出願方法 (2)の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、教育学部教務係へ提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の出願用封筒の「推薦入学」を赤○で囲むこと 出 願 先 〒920 金沢市丸の内1番1号 金沢大学教育学部教務係 (2) 提出書類 ① 一般の入学志願者が提出すべき出願に必要な書類等（本募集要項18ページ） ② 「推薦書」（所定の用紙で高等学校長が作成したもの） ③ 「体育運動に関する調査書」（所定の用紙で高等学校長が作成したもの） 「推薦書」、「体育運動に関する調査書」の用紙は、高等学校長からの請求により教育学部教務係で交付する。郵送を希望する場合は、返信用封筒（角型3号）に360円切手をはり付けたものを送付すること 2 合格者発表 平成2年2月9日（金）午後4時（予定）に教育学部掲示場で行うとともに、選考の結果は、高等学校長を通じて本人に通知する 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続きに必要な書類を併せて送付する 3 入学手続 (1) 入学手続期間 平成2年2月14日（水）～2月15日（木） (2) 提出書類 本学受験票等、センター試験受験票（提示） (3) 納付金の納入 ①入 学 料 206,000円 納入期間 平成2年2月14日（水）～2月15日（木） ②授 業 料（前期分） 169,800円

実施学部・学科名	教育学部・高等学校教員養成課程（保健体育）
その他	<p>納入期間 平成2年2月14日（水）～2月15日（木） （注）1 授業料（前期分）を上記納入期間に納入しないときは、平成2年4月2日から4月28日までに納入することとなる 2 入学手続き終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申し出により当該授業料相当額を返還する (4) 入学手続場所 本学 学生部入学主幹付入学試験係 （金沢市丸の内1番1号）</p> <p>(5) 留意事項 ① 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られない。（ただし、本学学長の推薦入学辞退許可を得た場合を除く） ② 入学手続き後は、一切の変更を認めない 入学辞退する場合は、高等学校長と連署で2月15日までに推薦入学辞退願（所定の用紙）により願い出て、学長の推薦入学辞退許可を得なければならない （注）その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については、「学生生活」の項（56ページ以下）の該当事項を参照のこと</p> <p>4 個別学力検査等（実技検査）の受験についての取扱い 選考に合格しなかった場合に備えて、次の要領によりあらかじめ出願を行った者についてのみ、一般の入学志願者と同様に個別学力検査等（実技検査）を受験することができる (1) 出願期間 平成2年1月22日（月）～1月31日（水） 受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午まで受け付ける なお、持参する場合は、平成2年1月31日（水）午後5時まで、郵送する場合は、平成2年1月29日（月）以前の発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する (2) 提出書類 本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ、出願期間内に教育学部教務係に提出すること。なお、所定の用紙等は、推薦入学に出願した者に教育学部教務係で交付する ①教育学部志願書—所定の用紙による ②検定料—13,000円、郵便為替（普通為替に限る） ③検定料納付及び領収証書用紙—所定の用紙による ④返送用封筒—受験票等送付用で、所定の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手（272円）をはり付けたもの (3) 留意事項 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない ◎ 第2志望について 高等学校教員養成課程（保健体育）とスポーツ科学課程を相互に第1志望・第2志望とすることは認めない</p>

実施学部・学科名	教育学部・スポーツ科学課程
募集人員	6名以内
選抜期日	平成2年2月5日(月) 小論文——10:00~11:20 面接——13:00~ (注)健康診断 調査書による審査の結果特に必要があると認めた者については、面接終了後、本学で精密検査を行う
選抜方法	選考は、センター試験、小論文、面接、調査書、推薦書及び健康診断の結果を総合して行う 小論文——体育、スポーツに関することを論述させる
出願期間	平成元年12月18日(月)~平成元年12月22日(金) 受付時間は、午前9時から午後5時までとする。持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと
出願要件	1 平成2年3月高等学校を卒業見込みの者で、センター試験の5教科6科目を受験している者 2 高等学校長が、次のいずれかに該当すると認め、人物、健康等に責任を持って推薦できる者 (1) 高等学校における学習成績概評がB段階以上に該当し、体育・スポーツの分野で特に優れた成績をおさめた者 (2) 高等学校における学習成績概評がA段階以上に該当し、学力に優れ、かつ体育・スポーツの分野に格別の興味と関心を持ち、校内・外のスポーツ活動に熱心に携わっていた者 3 社会における体育・スポーツの充実・発展に貢献する熱意を有する者 4 推薦は1校2名以内とする
その他	1 出願手続 (1) 出願方法 (2)の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、教育学部教務係へ提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の出願用封筒の「推薦入学」を赤○で囲むこと 出願先 〒920 金沢市丸の内1番1号 金沢大学教育学部教務係 (2) 提出書類 ① 一般の入学志願者が提出すべき出願に必要な書類等(本募集要項18ページ) ② 「推薦書」(所定の用紙で高等学校長が作成したもの) ③ 「体育運動に関する調査書」(所定の用紙で高等学校長が作成したもの) 「推薦書」、「体育運動に関する調査書」の用紙は、高等学校長からの請求により教育学部教務係で交付する。郵送を希望する場合は、返信用封筒(角型3号)に360円切手をはり付けたものを送付すること 2 合格者発表 平成2年2月9日(金)午後4時(予定)に教育学部掲示場で行うとともに、選考の結果は、高等学校長を通じて本人に通知する 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続きに必要な書類を併せて送付する 3 入学手続

実施学部・学科名	教育学部・スポーツ科学課程
	(1) 入学手続期間 平成2年2月14日(水)~2月15日(木) (2) 提出書類 本学受験票等、センター試験受験票(提示) (3) 納付金の納入 ① 入 学 料 206,000円 納入期間 平成2年2月14日(水)~2月15日(木) ② 授 業 料(前期分) 169,800円 納入期間 平成2年2月14日(水)~2月15日(木) (注) 1 授業料(前期分)を上記納入期間に納入しないときは、平成2年4月2日から4月28日までに納入することとなる 2 入学手続き終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申し出により当該授業料相当額を返還する (4) 入学手続場所 本学 学生部入学主幹付入学試験係 (金沢市丸の内1番1号) (5) 留意事項 ① 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力検査等を受験しても入学許可は得られない。(ただし、本学学長の推薦入学辞退許可を得た場合を除く) ② 入学手続き後は、一切の変更を認めない 入学辞退する場合は、高等学校長と連署で2月15日までに推薦入学辞退願(所定の用紙)により願い出て、学長の推薦入学辞退許可を得なければならない (注) その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については、「学生生活」の項(56ページ以下)の該当事項を参照のこと 4 個別学力検査等(実技検査)の受験についての取扱い 選考に合格しなかった場合に備えて、次の要領によりあらかじめ出願を行った者についてのみ、一般の入学志願者と同様に個別学力検査等(実技検査)を受験することができる (1) 出願期間 平成2年1月22日(月)~1月31日(水) 受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午まで受け付ける なお、持参する場合は、平成2年1月31日(水)午後5時まで、郵送する場合は、平成2年1月29日(月)以前の発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する (2) 提出書類 本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ、出願期間内に教育学部教務係に提出すること。なお、所定の用紙等は、推薦入学に出願した者に教育学部教務係で交付する ① 教育学部志願書—所定の用紙による ② 検定料—13,000円、郵便為替(普通為替に限る) ③ 検定料納付及び領収証書用紙—所定の用紙による ④ 返送用封筒—受験票等送付用で、所定の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手(272円)をはり付けたもの (3) 留意事項 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない ◎ 第2志望について スポーツ科学課程と高等学校教員養成課程(保健体育)を相互に第1志望・第2志望とすることは認めない
そ の 他	

実施学部・学科名	経済学部・経済学科
募集人員	10名以内
選抜期日	平成元年12月7日(木) 小論文Ⅰ—10:30~12:30 小論文Ⅱ—13:30~15:00 平成元年12月8日(金) 面接—9:00~ (注)1 小論文Ⅰ(英文の資料を与え、それに関して出題された論 題について800字程度で論述させる。辞書は貸与する) 小論文Ⅱ(与えられた論題について800字程度で論述させ る) 2 健康診断 調査書による審査の結果特に必要があると認めた者について は、面接終了後、本学で精密検査を行う
選抜方法	1 センター試験及び個別学力検査を免除する 2 選考は、現代の社会・経済に関する小論文2編、面接、調査書、 推薦書及び健康診断の結果を総合して行う
出願期間	平成元年11月24日(金)~平成元年11月30日(木) 受付時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は 正午までとし、日曜日は受け付けない 持参、郵送による場合も、期限までに必着のこと
出願要件	1 平成2年3月高等学校の商業に関する学科を卒業見込みの者で、 かつ、高等学校における学習成績概評がA段階以上に該当する者で、 高等学校長が責任を持って推薦できる者とする。特別活動又は校外 での活動において優れた能力を有する者が望ましい 2 推薦は、1校に1名とする
その他	1 出願手続 (1) 出願方法 (2)の提出書類は、高等学校長が取りまとめ、経済学部学生係へ 提出すること。郵送の場合は、本募集要項に添付の出願用封筒の 「推薦入学」を赤○で囲むこと 出 願 先 〒920-11 金沢市角間町 金沢大学経済学部学生係 (2) 提出書類 ① 一般の入学志願者が提出すべき出願に必要な書類等(本募集 要項18ページ。ただし、入学志願票及び志願コード票中、選択 受験科目及びセンター試験成績請求票については除く) ② 「推薦書」(所定の用紙で高等学校長が作成したもの) 「推薦書」の用紙は、高等学校長からの請求により経済学部学生 係で交付する。郵送を希望する場合は、返信用封筒(角型3号) に360円切手をはり付けたものを送付すること 2 選考の結果の通知 選考の結果は、平成元年12月15日(金)付けで高等学校長を通じ て受験者に通知する 3 合格者発表 平成2年1月19日(金)午後4時(予定)に経済学部掲示場で行 う 合格者には、同時に合格通知書及び入学手続きに必要な書類を送 付する 4 入学手続

実施学部・学科名	経済学部・経済学科
その他	<p>(1) 入学手続期間 平成2年2月14日(水)~2月15日(木)</p> <p>(2) 提出書類 本学受験票等</p> <p>(3) 納付金の納入 ①入 学 料 206,000円 納入期間 平成2年2月14日(水)~2月15日(木) ②授 業 料(前期分) 169,800円 納入期間 平成2年2月14日(水)~2月15日(木) (注)1 授業料(前期分)を上記納入期間に納入しないとき は、平成2年4月2日から4月28日までに納入するこ ととなる 2 入学手続き終了者が3月31日までに入学を辞退した 場合には、納付した者の申し出により当該授業料相当 額を返還する</p> <p>(4) 入学手続場所 本学 学生部入学主幹付入学試験係 (金沢市丸の内1番1号)</p> <p>(5) 留意事項 ① 本学の推薦入学合格者は、他の国公立大学・学部の個別学力 検査等を受験しても入学許可は得られない(ただし、本学学長 の推薦入学辞退許可を得た場合を除く) ② 入学手続き後は、一切の変更を認めない 入学辞退する場合は、高等学校長と連署で2月15日までに推 薦入学辞退願(所定の用紙)により願い出て、学長の推薦入学 辞退許可を得なければならない (注) その他入学時に必要な経費並びに入学科免除制度及び授 業料免除制度については、「学生生活」の項(56ページ以下) の該当事項を参照すること</p> <p>5 個別学力検査の受験についての取扱い 選考の結果、合格しなかった者のうち、センター試験の5教科6科 目を受験した者で、次の要領により再出願を行った者についてのみ、 一般の入学志願者と同様に個別学力検査を受験することができる</p> <p>(1) 出願期間 平成2年1月22日(月)~1月31日(水) 受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。た だし、土曜日は正午まで受け付ける なお、持参する場合は、平成2年1月31日(水)午後5時まで、 郵送する場合は、平成2年1月29日(月)以前の発信局日付印の ある書留速達便にかぎり受理する</p> <p>(2) 提出書類 本学所定の封筒に次の書類を一括して入れ、出願期間内に経済 学部学生係に提出すること。なお、所定の用紙等は、選考結果通 知とともに送付する ①経済学部志願書—所定の用紙により、選択受験科目を届け出る こと ②センター試験成績請求票—「A」 前 平成2 センター試験成績 請求票 A日程・前期日程用 ③受験票—推薦入学試験の際に発行した受験票 ④検定料—13,000円、郵便為替(普通為替に限る) ⑤検定料納付及び領収証書用紙—所定の用紙による ⑥返送用封筒—受験票等送付用で、所定の封筒に、自己の住所、 氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手(272円)をはり 付けたもの</p> <p>(3) 留意事項 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載 事項の変更及び検定料の払い戻しはしない</p>

11 外国人特別学生（私費外国人留学生）の入学者選抜

(1) 出願資格

日本の国籍を有しない者で、次の各号に該当し、かつ、財団法人日本国際教育協会が実施する平成元年度日本語能力試験（１級）及び平成２年度私費外国人留学生統一試験を受験したもの（センター試験は免除する。）

- ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者若しくはこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの、又は国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの
- ② 出入国管理及び難民認定法において、大学入学に支障のない在留資格を有する者

(2) 入学者選抜方法

平成元年度日本語能力試験（１級）及び平成２年度私費外国人留学生統一試験の成績、学力検査等の成績、書類審査及び健康診断の結果を総合して日本人とは異なる基準により、定員外として選考する。

学力検査等の科目は次のとおりである。

(3) 個別学力検査等の科目及び実施期日

① 個別学力検査等の科目は次のとおりである。

学 部	学 科（課程）	留学生統一試験	学 力 検 査 等
文 学 部	全 学 科	文 科 系	小論文と面接
教 育 学 部	小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 〔家庭〕 高等学校教員養成課程 （保健体育） 聾学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 （小学部） 養護学校教員養成課程 （中学部）〔家庭〕 言語障害児教育教員養成課程 総合科学課程 （人間科学コース） スポーツ科学課程	文 科 系 又は 理 科 系	一般の入学志願者の個別学力検査等の科目と面接
	中学校教員養成課程 〔社会・音楽・美術・英語〕 養護学校教員養成課程 （中学部）〔美術〕 総合科学課程 （文化科学コース）		
	中学校教員養成課程 〔数学・理科・技術・保健・職業〕 養護学校教員養成課程 （中学部） 〔数学・技術・保健〕 総合科学課程 （自然科学コース）		
	中学校教員養成課程 〔国語〕		
法 学 部	法学科	文 科 系	小論文と面接
経 済 学 部	経済学科	文 科 系	小論文と面接
理 学 部	数学科	理 科 系	一般の入学志願者の個別学力検査等（前期日程）の科目と面接 小論文と面接
	物理学科 化学科 生物学科 地学科		
医 学 部	医学科	理 科 系	一般の入学志願者の個別学力検査等の科目と面接
薬 学 部	全学科	理 科 系	一般の入学志願者の個別学力検査等（前期日程）の科目と面接
工 学 部	全学科	理 科 系	小論文と面接

（注）一般の入学志願者の個別学力検査等の科目は、本要項（６ページ）「３入学者選抜方法等の(5)平成２年度入学選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について」を参照すること。

② 個別学力検査等の実施期日は次のとおりである。

学 部	学 科 (課程)	学力検査及び実技検査	小 論 文 及 び 面 接
文 学 部	全 学 科		平成2年2月26日 (月)
教育学部	小学校教員養成課程 聾学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 (小学部) 言語障害児教育教員養成課程	平成2年2月25日 (日) 〔実技検査については、 (注) 1. を参照すること〕	
	中学校教員養成課程 〔社会・数学・理科・ 音楽・美術・技術・ 家庭・保健・職業・ 英語〕		平成2年2月26日 (月)
	養護学校教員養成課程 (中学部) 〔数学・美術・技術・ 家庭・保健〕	平成2年2月25日 (日)	
	高等学校教員養成課程 (保健体育) 総合科学課程 スポーツ科学課程		
	中学校教員養成課程 〔国語〕		
法 学 部	法 学 科		平成2年2月26日 (月)
経済学部	経 済 学 科		平成2年2月26日 (月)
理 学 部	数 学 科	平成2年2月25日 (日)	平成2年2月26日 (月)
	物 理 学 科 化 学 科 生 物 学 科 地 学 科		平成2年2月26日 (月)
医 学 部	医 学 科	平成2年2月25日 (日)	平成2年2月26日 (月)
薬 学 部	全 学 科	平成2年2月25日 (日)	平成2年2月26日 (月)
工 学 部	全 学 科		平成2年2月26日 (月)

(注) 1 学力検査及び実技検査の試験時間割は、本要項(15ページ)「3 入学者選抜方法等の(8)試験期日及び試験時間割」のとおりである。ただし、教育学部の小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(小学部)及び言語障害児教育教員養成課程の実技検査は、2月25日(日)の9:30~10:30で行う。

2 小論文及び面接の時間及び場所については、出願書類受理後に連絡する。

(4) 健康診断

出願書類として提出された健康診断書によって審査し、精密検査が必要と認められる者については、試験当日その旨を通知した上で検査を行う。

(5) 出 願

① この入学者選抜を希望する者は、出願用封筒に外国人特別学生(私費外国人留学生)出願書類在中と朱書すること。

② 出願期間 平成2年1月22日(月)~平成2年1月31日(水)

受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午まで受け付ける。

なお、持参する場合は、平成2年1月31日(水)午後5時まで、郵送する場合は平成2年1月29日(月)以前の発信局日付印のある書留速達便にかぎり、受理する。

③ 出願に必要な提出書類

ア入学志願票 イ志願コード票 ウ受験票 エ写真票 オ検定料13,000円

カ検定料納付及び領収証書用紙 キ健康診断書 ク返送用封筒

ケ合格者名簿送付申込書

(以上の用紙は本要項に添付されている。)

コ外国人登録済証明書(在留資格が明示されたもの)

サ履歴書(日本語で記載すること)

シ最終課程の修了証明書、検定合格証明書又は国際バカロレア資格証書並びにそれらの成績証明書

ス日本在住者の身元保証書

教育学部の志願者については、上記のほか次の書類も提出すること。

イ教育学部写真票(小学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程(小学部)、言語障害児教育教員養成課程の志願者)

ロ選択系列・曲目届(中学校教員養成課程〔音楽〕の志願者)

ハ選択種目届(高等学校教員養成課程〔保健体育〕及びスポーツ科学課程の志願者)

1012-10-3370	号05番01目丁5裡立小市凡金	給主学・語学工
1821-02-1381	号1番1内0凡市凡金	給親短学入給主学入給主学

出願の音聴受 11

12 入学試験に関する問い合わせ

入学試験に関する問い合わせは、住所、氏名、郵便番号を明記した往復はがき又は書状（定形の返信用封筒に62円切手をはり付けたものを同封すること）により、次の通り志願学部又は学生部入学主幹付入学試験係あて行うこと。

学 部 等	住 所	電 話 番 号
文 学 部 ・ 学 生 係	金 沢 市 角 間 町	0762-64-5455
教 育 学 部 ・ 教 務 係	金 沢 市 丸 の 内 1 番 1 号	0762-62-4281
法 学 部 ・ 学 生 係	金 沢 市 角 間 町	0762-64-5456
経 済 学 部 ・ 学 生 係	金 沢 市 角 間 町	0762-64-5457
理 学 部 ・ 学 生 係	金 沢 市 丸 の 内 1 番 1 号	0762-62-4281
医 学 部 ・ 教 務 係	金 沢 市 宝 町 13 番 1 号	0762-62-8151
薬 学 部 ・ 学 生 係	金 沢 市 宝 町 13 番 1 号	0762-62-8151
工 学 部 ・ 学 生 係	金 沢 市 小 立 野 2 丁 目 40 番 20 号	0762-61-2101
学生部入学主幹付入学試験係	金 沢 市 丸 の 内 1 番 1 号	0762-62-4281

13 受験者の宿泊

大学では、宿泊のあつ旋をしないので、受験者において確保されたい。
なお、下記の団体があつ旋を行っているので、希望者は返信用封筒（切手貼付）同封の上、1月31日までに照会されたい。（1泊2食 5,000円～9,000円（消費税は別））
金沢市旅館協同組合
〒920 金沢市本多町3丁目10番26号 電話（0762）21-1147

2 小論文及び面接の時間及び場所については、出願書類を提出し受検する。
(4) 健康診断
出願書類として提出された健康診断書によって審査し、精密検査が必要と認められる者については、試験当日その旨を通知した上で検査を行う。
(5) 出 願
① この入学者選抜を希望する者は、出願用封筒に外国人特別学生（私費外国人留学生）出願書類在中と表示すること。

〔後 期 日 程〕

3 入学者選抜方法等

- (1) 入学者選抜方法
入学者の選抜は、センター試験並びに大学が行う個別学力検査、調査書の内容及び健康診断の結果を総合して行う。
- ① センター試験の受験を受ける教科・科目等、個別学力検査等及び健康診断の科目については、(6)平成2年度入学選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について、から「健康診断」までの各項目をそれぞれ参照すること。
- ② センター試験及び個別学力検査を受けるべき教科・科目の科目・科目の科目については、(6)平成2年度入学選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について、から「健康診断」までの各項目をそれぞれ参照すること。
- (2) 試験実施方式・日程
- ① 選抜方式（A日程）で実施する学部
文部科学省指定の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の科目・科目の科目については、(6)平成2年度入学選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について、から「健康診断」までの各項目をそれぞれ参照すること。
- ② センター試験及び個別学力検査を受けるべき教科・科目の科目については、(6)平成2年度入学選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について、から「健康診断」までの各項目をそれぞれ参照すること。
- (3) 学 内 併 願
① 1月18日（土）午前9時～午後5時（以下「併願期間」という。）に、併願希望者は、併願希望する学部・学科の併願用出願書類（以下「併願用出願書類」という。）を、併願希望する学部・学科の併願用出願窓口（以下「併願用出願窓口」という。）に提出すること。
- ② 併願用出願書類の提出は、併願希望する学部・学科の併願用出願窓口（以下「併願用出願窓口」という。）に提出すること。
- ③ 併願用出願書類の提出は、併願希望する学部・学科の併願用出願窓口（以下「併願用出願窓口」という。）に提出すること。
- ④ 併願用出願書類の提出は、併願希望する学部・学科の併願用出願窓口（以下「併願用出願窓口」という。）に提出すること。
- ⑤ 併願用出願書類の提出は、併願希望する学部・学科の併願用出願窓口（以下「併願用出願窓口」という。）に提出すること。

1 募集人員

学 部	学 科	募集人員	備 考
理 学 部	数 学 科	5	
	物 理 学 科	5	
	化 学 科	10	
	生 物 学 科	5	
	地 学 科	5	
	計	30	
薬 学 部	薬 学 科	5	
	製 薬 化 学 科	5	
	計	10	
工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	20	
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	30	
	物 質 化 学 工 学 科	25	
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	20	
	計	95	
合 計		135	

2 出 願 資 格

次のいずれかに該当し、平成2年度大学入学者選抜大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の受験を要する教科（43～44ページ「3 入学者選抜方法等(6)平成2年度入学者選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について」）を全て受験した者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者及び平成2年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成2年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第69条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成2年3月31日までにこれに該当する見込みの者
 - ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成2年3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部大臣の指定したもの
 - ② 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成2年3月31日までに修了見込みの者
 - ③ 文部大臣の指定した者
主なものは次のとおり

- ア 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による小学校、中学校若しくは高等学校の教諭の普通免許状を有する者又は教育職員免許法施行法（昭和24年法律第148号）によりこれらの免許状を有するものとみなされた者（旧教員免許令（明治33年勅令第134号）に基づく旧実業学校教員検定に関する規程（大正11年文部省令第4号）による実習科目に関する限りの実業学校教員免許状を有する者を除く）。
イ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で平成2年3月31日までに18歳に達するもの
ウ 専修学校高等課程の修業年限3年以上の課程で文部大臣が別に指定したものを文部大臣が定める日以後に修了した者及び平成2年3月修了見込みの者
エ 運輸省組織令（昭和59年政令第175号）による海員学校の本科を卒業した者及び平成2年3月卒業見込みの者
- ④ 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部大臣が行う大学入学資格検定に合格した者及び平成2年3月31日までに合格見込みの者で、平成2年3月31日までに18歳に達するもの

3 入学者選抜方法等

(1) 入学者選抜方法

入学者の選抜は、センター試験並びに本学が行う個別学力検査等、調査書の審査及び健康診断の結果を総合して行う。

- ① センター試験の受験を要する教科・科目等、個別学力検査等及び健康診断の詳細については、「(6)平成2年度入学者選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について」から「(10)健康診断」までの各項をそれぞれ参照すること。
- ② センター試験及び個別学力検査等で、志望する学部・学科が課す教科・科目のすべてを受験しなければ、失格とする。

(2) 試験実施方式・日程

- ① 連続方式（A日程）で実施する学部
文学部、教育学部、法学部、経済学部、医学部の各学部（2ページ以下を参照すること）
- ② 分離・分割方式（前期日程・後期日程）で実施する学部
理学部、薬学部、工学部の各学部（前期日程は、2ページ以下を参照すること）

(3) 学 内 併 願

日程の異なった学部間の併願及び同一学部内学科間の併願を認める。

（注）「A日程」と「前期日程」、「B日程」と「後期日程」及び「同一日程間」の併願はできないので注意すること。

(4) 2 段 階 選 抜

① 次の学部・学科では、志願者数が募集人員の下記倍数を超えた場合に、主として、調査書の内容とセンター試験の成績により第1段階選抜を行うことがある。

この場合、その合格者について個別学力検査等を行う。
 理学部（数学科，生物学科，地学科）・・・10倍
 工学部（全学科）・・・・・・・・・・・・・・8倍

② 第1段階選抜の合格者発表

平成2年2月17日（土）

ア 第1段階選抜を実施しない場合
 実施しない旨を、該当学部において掲示発表するとともに、志願者全員に受験票を送付する。

イ 第1段階選抜を実施した場合
 合格者の受験番号（入学検定料領収証書の氏名欄に記入されている）を、該当学部において掲示発表するとともに、合格者には合格通知及び受験票を、不合格者には不合格通知及び入学検定料の一部返還申請書を送付する。

(5) 第 2 志 望〔薬学部以外の学部は該当しない〕

薬学部・薬学科及び製薬化学科の志願者は、互いに他を第2志望とすることができる。

2 出 願 資 格

(6) 平成2年度入学者選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について

入学志願者に解答させる教科科目名等 利用する学部 (学科, 課程, 専攻等) 名	利用する 選 抜 対 象	入学志願者に解答 させる教科・科目名	個別学力検査等 の教科・科目等	大学入試 センター 試験の 利用方法	そ の 他
数 学 科	理 学 部	数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ, 簿, 工から1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Ⅰから1) 外(英, 独, 仏から1)	数(数Ⅰ, 代幾, 基礎, 微積, 確統)		
物 理 学 科		国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ, 簿, 工から1」) 理(物, 化, 生, 理Ⅰから1) 外(英, 独, 仏から1)	個別学力検査等は課さない		
学 化 学 科		国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ, 簿, 工から1」) 理(物, 化, 生, 理Ⅰから1) 外(英, 独, 仏から1)	理(化)		
生 物 学 科		国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ, 簿, 工から1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Ⅰから1) 外(英, 独, 仏から1)	面接 (生物学に対する勉学意欲と資質等を判断するための試問を行う。)		
地 学 科		国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ, 簿, 工から1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Ⅰから1) 外(英, 独, 仏から1)	面接 (地学に対する勉学意欲と資質等を判断するための試問を行う。)		
薬 製 薬 学 科	一般選抜 の 全 部	数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ, 工から1」) 理(化) 外(英, 独, 仏から1)	個別学力検査等は課さない		
土 木 建 設 工 学 科	工 学 部	国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ, 簿, 工から1」) 理(物, 化, 生, 地学, 理Ⅰから1) 外(英, 独, 仏から1)	面接 (多面的な試問を行い, 勉学遂行意欲を評定する。)		
機 械 シ ス テ ム 工 学 科		国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(数Ⅰ, 数Ⅱ) 理(物) 外(英, 独, 仏から1)	小論文 (科学技術一般に関する素養に基づいた800字程度の作文。)		
物 質 化 学 工 学 科		国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(数Ⅰ, 数Ⅱ) 理(物, 化から1) 外(英, 独, 仏から1)	面接 (化学・物理学などの基礎的事項に関する理解力と表現力を問う。)		
電 気 ・ 情 報 工 学 科		国(倫, 日, 世, 地理, 現社から1) 数(数Ⅰ, 数Ⅱ) 理(物) 外(英, 独, 仏から1)	面接 (科学技術の勉学・研究に必要な適性, 能力及び意欲を評価する。)		

44ページ
「(7) 配
点」を参
照するこ
と

1 センター試験
の理科を1科目
選択受験しな
ければならな
い学部・学科
において、複
数の科目を受
験した受験者
の成績は、最
高得点のもの
とする
2 各教科とも
受験科目数が
複数であっても
同一試験時間
内に解答させ
る

(注) 1. 社, 理, のうち「現社」及び「理Ⅰ」を選択解答することができる者は, 高等学校の普通科, 理数科の卒業 (見込み) 者以外の者に限る。
2. 数, のうち「簿」「工」を選択解答することができる者は, 高等学校において, 「簿記会計Ⅰ」・「簿記会計Ⅱ」又は「工業数理」を履修した者及び文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了 (見込み) 者に限る。
備考 個別学力検査等の教科・科目等は, 表中次のとおり略記した。
数 学……数Ⅰ「数学Ⅰ」, 代幾 (代数・幾何), 基解 (基礎解析), 微積 (微分・積分), 確統 (確率・統計)
理 科……化 (化学)

(7) 配 点
センター試験 (大試と略す) 及び個別学力検査等 (個別と略す) の配点は, 次のとおり。

学 部・学 科		配点 区分	教 科 等								合計
			国語	社会	数学	理科	外国語	実技	小論文	面接	
理 学 部	数 学 科	大試	—	—	200	100	200	—	—	—	500
		個別	—	—	400	—	—	—	—	—	400
	物 理 学 科	大試	100	100	200	#300	300	—	—	—	1,000
		個別	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	化 学 科	大試	50	50	100	100	100	—	—	—	400
		個別	—	—	—	300	—	—	—	—	300
	生 物 学 科	大試	200	200	300	300	300	—	—	—	1,300
		個別	—	—	—	—	—	—	—	300	300
	地 学 科	大試	50	50	200	200	200	—	—	—	700
		個別	—	—	—	—	—	—	—	200	200
	薬 学 部	大試	—	—	200	200	100	—	—	—	500
		個別	—	—	—	—	—	—	—	—	—
工 学 部	土 木 建 設 工 学 科	大試	100	100	100	100	100	—	—	—	500
		個別	—	—	—	—	—	—	—	100	100
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	大試	100	50	200	150	200	—	—	—	700
		個別	—	—	—	—	—	—	100	—	100
	物 質 化 学 工 学 科	大試	100	50	250	200	200	—	—	—	800
		個別	—	—	—	—	—	—	—	100	100
	電 気 ・ 情 報 工 学 科	大試	50	50	200	100	100	—	—	—	500
		個別	—	—	—	—	—	—	—	100	100

(注) 理学部・物理学科の#印は, 物理 (200 点), [化学, 生物, 理Ⅰから1] (100 点) であることを示す。

(8) 試験期日及び試験時間割

月 日 (曜)		3 月 12 日 (月)	
学部・学科			
理	数 学 科	数 学	13 : 00 ~ 16 : 00
	物 理 学 科	個別学力検査等は課さない	
	化 学 科	理 科 (化学)	10 : 00 ~ 12 : 00
学	生 物 学 科	面 接	9 : 00 ~ (詳細は, 受験票送付時に通知する)
	地 学 科	面 接	9 : 00 ~ (詳細は, 受験票送付時に通知する)
	薬 学 部	個別学力検査等は課さない	
工	土 木 建 設 工 学 科	面 接	9 : 00 ~ (詳細は, 受験票送付時に通知する)
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	小論文	13 : 30 ~ 15 : 00
	物 質 化 学 工 学 科	面 接	9 : 00 ~ (詳細は, 受験票送付時に通知する)
学	電 気 ・ 情 報 工 学 科	面 接	9 : 00 ~ (詳細は, 受験票送付時に通知する)

(9) 試 験 場

志 願 学 部	試 験 場	所 在 地
理 学 部	理 学 部	金沢市丸の内1番1号
工 学 部	工 学 部	金沢市小立野2丁目40番20号

(注) 試験場等の詳細は、2月17日(土)受験票送付の際に通知する。

(10) 健 康 診 断

- ① 調査書の「健康の状況」又は健康診断書によって審査し、必要と認める者については、精密検査を3月12日(月)午後本学で実施する。
- ② 精密検査の該当者には、実施に関する事項を3月12日の学力検査、小論文、及び面接終了時までには通知する。
なお、薬学部及び理学部・物理学科の志願者については、2月17日受験票送付の際に通知する。
- ③ 精密検査の該当者が受検しない場合は、失格とする。
- ④ 調査書又は健康診断に記載された事項が入学後本学で実施する健康診断の結果と著しく相違し、修学に必要な条件を満たしていないことが判明した場合には、入学後であっても入学許可を取り消すことがある。
- ⑤ 学部・学科によっては、修学に耐えないと認められる疾病並びに視力障害、聴力障害、言語障害及び運動機能障害(肢体不自由)等のある者は、入学を許可しないことがある。
ア 視力障害により入学を許可しない学部・学科は、次のとおりである。

学 部	学 科	障 害 の 程 度 等
理 学 部	全 学 科	次のいずれかに該当するもの 1 両眼の視力が0.3未満のもの(両眼の矯正視力による。)
薬 学 部	全 学 科	2 視力以外の視機能障害が高度のものうち、点字による教育を必要とするもの
工 学 部	全 学 科	3 将来点字による教育を必要とすることとなると認められるもの

- イ 次の学部・学科は、色覚障害を合否判定の基準とはしないが、高度の異常は修学上支障を来すことがある。
- 理 学 部 化 学 科、地 学 科
薬 学 部 薬 学 科、製薬化学科
工 学 部 土木建設工学科、物質化学工学科

4 出 願 期 間

平成2年1月22日(月)～平成2年1月31日(水)

受付は、日曜日を除き、午前9時から午後5時までとする。ただし、土曜日は正午まで受け付ける。

なお、持参する場合は、平成2年1月31日(水)午後5時まで、郵送する場合は、平成2年1月29日(月)以前の発信局日付印のある書留速達便にかぎり受理する。

◎出願状況の情報提供について

各学部・学科の出願状況(志願者数及び倍率)について、次の期間中テレフォンサービスを行う。

平成2年1月22日(月)午後7時頃～平成2年2月2日(金)

電話番号 0762(21)7700 (通話料金は有料)

5 出 願 手 続

(1) 出 願 方 法

志願者は、(2)の「出願に必要な書類等」(後期日程用)を一括して、本学所定の封筒に入れ、出願期間内に志願する学部へ提出すること。

なお、出身高等学校等で取りまとめて提出する場合は、志願者毎に本学所定の封筒に入れて提出すること。

(A日程・前期日程・推薦入学の出願用紙・封筒を使用してはならない。)

〔出願に当たっての注意事項〕

- ① センター試験の受験票及び成績請求票の再発行を受けた場合は、再発行された受験票及び成績請求票のみが有効である。この場合は、再発行された成績請求票により出願しなければ、失格とする。
- ② 他の国公立大学(私立産業医科大学を含む)・学部の前期日程入学手続者は、本学の後期日程を受験しても合格者とはならない(当該大学・学部の定める入学手続を取らなかった者を除く。)
- ③ 他の国公立大学(私立産業医科大学を含む)・学部の推薦入学合格者は、本学を受験しても合格者とはならない(当該大学・学部の定める入学辞退手続により入学辞退し、その許可を得た者を除く。)

- ④ 出願書類に不備がある場合は、受理しないことがある。
- ⑤ 出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない（ただし、第1段階選抜の不合格者には、申し出により検定料の一部を返還する。）。
- ⑥ 出願書類に不正な事実があった場合は、入学許可を取り消すことがある。

(2) 出願に必要な書類等

① 入学志願票 志願コード票 受験票 写真	本要項に添付の用紙による 「B」後平成2センター試験成績請求票B日程・後期日程用」及び写真2枚をそれぞれ所定の欄にはり付けること （「入学志願票等記入要領」を参照のこと）
② 検 定 料	13,000円 郵便為替（普通為替に限る） 郵送による場合は、普通為替を出願書類に同封して提出すること なお、この普通為替の受取人指定欄、領収者欄等には何も記入しないこと 第1段階選抜で不合格となった場合は、返還請求手続きを取ることに より11,000円を返還する（返還に要する書類は、不合格通知に同封する）
③ 検定料納付及び 領収証書用紙	本要項に添付の用紙による
④ 調 査 書	文部省所定の様式により出身学校長が作成したもの （「出欠の記録」欄で長期の欠席があった場合は、必ず備考欄にその診断名等を記入すること。「健康の状況」欄の記入にあたっては、異常がない場合又は特に記入する事項がない場合は、その旨を記入すること。眼鏡等を使用している者は、矯正視力を必ず記入すること）
⑤ 健康診断書	昭和63年3月以前の高等学校卒業者及び大学入学資格検定合格者等は、本要項に添付の用紙により視力、聴力、結核並びにその他の疾病及び異常について医師が証明し、厳封したもの （平成元年3月高等学校卒業者及び平成2年3月卒業見込みの者は、提出の必要はない）
⑥ 返 送 用 封 筒	受験票等送付用で、本要項に添付の封筒に、自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手（272円）をはり付けたもの
⑦ 合格者名簿送付 申 込 書	この申込は任意であるが、志願者は申し込むことが望ましい（ 本学の合格発表は学内掲示のみとする ） なお、第1段階選抜で不合格となった場合は返却する

- (注) 1 外国人は、上記書類のほか、外国人登録済証明書（在留資格が明示されたもの）を添付すること。
- 2 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の修了者は、修了証明書及び成績証明書をもって調査書に代える。
- 3 文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了者は、成績証明書をもって調査書に代える。
- 4 大学入学資格検定試験の合格者は、合格証明書及び合格成績証明書をもって調査書に代える。
- 5 調査書の提出困難な学校（廃校、被災等）の出身者は、その旨を証明した書類をもって調査書に代える。

(3) 出願書類等の提出先

志 願 学 部	提 出 先
理 学 部	理学部・学生係 〒920 金沢市丸の内1番1号
薬 学 部	薬学部・学生係 〒920 金沢市宝町13番1号
工 学 部	工学部・学生係 〒920 金沢市小立野2丁目40番20号

(4) 入学志願票等記入要領

入学志願票・志願コード票・受験票・写真票の「*」印欄を除き、以下の指示に従って該当事項を正確に記入すること。

① 入学志願票 (注意すべき項目)

第 2 志 望	◆ 薬学部志願者で、他の学科を第2志望とする場合は、当該第2志望の学科名を○で囲むこと
出 願 資 格	◆ 18歳以前に大学入学資格検定試験に合格した者は、18歳に達した元号の年月、また、18歳以降に合格した者は、合格した元号の年月を記入すること

② 志願コード票

次の表の説明に従ってコード等を記入すること。

区 分	説 明	コード等記入例						
② 学部・学科	次の学部・学科コード表により記入すること 〔学部・学科コード表〕							
学部・学科	コード	学部・学科	コード	学部・学科	コード			
理 学 部	数学科	3 1 7	薬 学 部	薬学科	5 1 7	工 学 部	土木建設工学科	6 1 7
	物理学科	3 2 7		製薬化学科	5 5 7		機械システム工学科	6 2 7
	化学科	3 3 7					物質化学工学科	6 3 7
	生物学科	3 4 7					電気・情報工学科	6 4 7
	地学科	3 5 7						
③ 成績請求票	大学入試センターから交付された「 B 後平成2センター試験成績請求票B日程・後期日程用」をはり付けること なお、再交付を受けた場合は、再交付された成績請求票のみ有効である							
④ 第2志望 (薬学部以外は記入を要しない)	薬学部 ◆薬学科の志願者で、製薬化学科を第2志望とするもの ◆製薬化学科の志願者で、薬学科を第2志望とするもの	⇒ <table border="1"><tr><td>5</td><td>5</td></tr></table> ⇒ <table border="1"><tr><td>5</td><td>1</td></tr></table>	5	5	5	1		
5	5							
5	1							
⑤ 生年月日	数字が1ケタの場合は、あたみに0を記入すること	例 昭和9年1月7日 <table border="1"><tr><td>0</td><td>9</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>7</td></tr></table>	0	9	0	1	0	7
0	9	0	1	0	7			
⑥ 性別	男 女	⇒ <table border="1"><tr><td>1</td></tr></table> ⇒ <table border="1"><tr><td>2</td></tr></table>	1	2				
1								
2								
⑦ 資格取得年	高等学校卒業見込み又は卒業の元号を記入すること	昭和63年 <table border="1"><tr><td>S</td><td>6</td><td>3</td></tr></table> 平成元年 <table border="1"><tr><td>H</td><td>0</td><td>1</td></tr></table>	S	6	3	H	0	1
S	6	3						
H	0	1						

6 身体に障害のある者の出願

身体に障害のある入学志願者で、受験上及び修学上、特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、下記の事項を記載した文書（様式は問わない。）及び医師の診断書を添えて、学生部入学主幹付入学試験係へ提出し、相談すること。

- (1) 志望学部・学科
- (2) 障害の種類・程度
- (3) 受験上、特別な配慮を希望する事項
- (4) 修学上、特別な配慮を希望する事項
- (5) 高等学校でとられていた特別措置
- (6) 日常生活の状況
- (7) その他参考となる事項

7 受験票等の送付

受験票は、試験場・集合同所等の案内、受験者心得とともに出願期間終了後2月17日（土）に志願者あて発送する。

なお、2段階選抜を実施した学部・学科の第1段階選抜合格者には、試験場・集合同所等の案内、受験者心得とともに出願期間終了後2月17日（土）に志願者あて発送する。

（注）この受験票は、センター試験受験票とともに、入学試験の際に提示しなければならない。また、入学手続の際は、提出及び提示しなければならないので紛失、汚損等のないように特に注意すること。

8 合格者発表

合格者の受験番号及び氏名は、3月23日（金）午前10時（予定）に本学教養部（金沢市丸の内1番1号）前掲示場で発表する。

なお、本学における合格発表は掲示のみとし、郵便等による合格通知は行わない。

ただし、希望者には、電子郵便により学部毎の合格者名簿送付の取扱いを行うので、志願者は申し込むことが望ましい。〔申し込んだ志願者には、3月23日午後7時頃までに、申込書の宛先へ配達される予定であるが、万一未着の場合は、最寄りの配達局（若しくは、金沢中央郵便局第一郵便課☎0762-24-3811）まで問い合わせること。〕

- （注）
- 1 合格発表は、原則としてセンター試験の際の氏名で発表する。
 - 2 電話その他による問い合わせには、応じない。
 - 3 入学手続きの結果、欠員が生じた場合は、3月28日以降に「追加合格」を実施することがある。

9 入学手続

合格者の入学手続は、次のとおり行う。

- (1) 入学手続は、必ず来学して行うこと（郵送による入学手続は、受け付けしない）。
- (2) 入学手続期間 平成2年3月26日（月）、平成2年3月27日（火）
- (3) 提出書類 本学受験票、センター試験受験票（提示）
- (4) 納付金の納入
 - ① 入学料 206,000円 郵便為替（普通為替に限る）
納入期間 平成2年3月26日（月）、3月27日（火）
 - ② 授業料（前期分）169,800円 郵便為替（普通為替に限る）
納入期間 平成2年3月26日（月）、3月27日（火）なお、入学料と授業料（前期分）を同時に納入する場合は、1枚の郵便為替とすること。
郵便為替の受取人指定欄、領収者欄等には何も記入してはいけない。
- （注）1 授業料（前期分）を上記期間に納入しないときは、平成2年4月2日から平成2年4月28日までに納入することとなる。
- 2 入学手続終了者が3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申し出により当該授業料相当額を返還する。
- (5) 入学手続場所 本学 学生会館（金沢市丸の内1番1号）
- (6) 留意事項
 - ① 入学手続後は、一切の変更を認めない。
 - ② 入学手続締切期限までに入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱う。
 - ③ 他の国公立大学（私立産業医科大学を含む）に入学手続を行った者は、これを辞退して本学に入学手続を行うことはできない。

（注）その他入学時に必要な経費並びに入学料免除制度及び授業料免除制度については「学生生活」の項（56ページ以下）の該当事項を参照すること。

10 入学試験に関する問い合わせ

入学試験に関する問い合わせは、住所、氏名、郵便番号を明記した往復はがき又は書状（定形の返信用封筒に62円切手をはり付けたものを同封のこと）により、次の通り志望学部又は学生部入学主幹付入学試験係あてに行うこと。

学 部 等	住 所	電 話 番 号
理 学 部 ・ 学 生 係	金沢市丸の内1番1号	0762—62—4281
薬 学 部 ・ 学 生 係	金沢市宝町13番1号	0762—62—8151
工 学 部 ・ 学 生 係	金沢市小立野2丁目40番20号	0762—61—2101
学生部入学主幹付入学試験係	金沢市丸の内1番1号	0762—62—4281

11 受験者の宿泊

大学では、宿泊のあつ旋をしないので、受験者において確保されたい。

なお、下記団体があつ旋を行っているので、希望者は返信用封筒（切手貼付）同封の上、1月31日までに照会されたい。〔1泊2食5,000円～9,000円（消費税は別）〕

金沢市旅館協同組合

〒920 金沢市本多町3丁目10番26号 電話（0762）—21—1147

1 入学時に必要な経費

入学科206,000円及び授業料（前期分）169,800円（年額339,600円）のほか必要な経費は、次のとおりである。

- (1) 学生健康保険組合費 4年分8,000円（医学部は6年分12,000円）
- (2) 学生教育研究災害傷害保険料
 - 文学部，教育学部，法学部，経済学部 (4年分) 1,150円
 - 理学部，薬学部，工学部 (4年分) 2,900円
 - 医学部 (6年分) 4,050円

参 考
教科書代は，当初15,000円～20,000円程度必要である。

2 入学料免除に関する取扱い

1 入学料免除の対象者

- (1) 入学前1年以内（平成元年4月から平成2年3月の間）に入学する者の学資を主として負担している者が死亡し，又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより，入学料の納付が著しく困難であると認められる者
- (2) 上記(1)に準ずる場合であって，学長が相当と認める事由がある者

上記(1)及び(2)の事由に該当する者は，願い出により入学料の全額又は半額が免除されることがある。

後日この決定通知をするが，半額免除又は不許可になった者は，その通知書に指定してある日までに入学料を納付しないときは除籍となるので留意されたい。

2 入学料免除申請手続

区 分	申請書の請求	申請書の提出（入学手続期間）	申 請 書 類
推薦による者	2月3日までに	2月14日（水）～15日（木）	・ 入学料免除願書 ・ 学資を負担している者の市区町村長の所得証明書 ・ 風水害等を受けた罹災証明書 ・ その他の証明書
前期日程の者	3月2日までに	3月12日（月）～13日（火）	
A 日 程 の 者	3月15日までに	3月26日（月）～27日（火）	
後期日程の者			

○入学料免除申請書の請求

郵便で請求する者は，免除申請の理由及び電話番号を付し，自己の住所・氏名・郵便番号を記入した返信用封筒（定形の封筒に62円切手をはったもの）を同封すること。

なお，入学料免除の詳細についても，厚生課厚生第一係へ照会すること。

○申し込み先

〒920 金沢市丸の内1番1号
金沢大学学生部厚生課厚生第一係（電話（0762）62—4281 内線286）

3 授業料免除に関する取扱い

1 免除対象者について

- (1) 経済的理由によって授業料を納付することが困難であり，かつ学業成績が優秀と認められる者
- (2) 入学前1年以内に，入学する者の学資を主として負担している者が死亡し，又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより，授業料の納付が著しく困難であると認められる者
- (3) 前号に準ずる場合であって，学長が相当と認める事由がある者

2 申請書類及び添付書類

- (1) 申請者全員が必要とする書類

申 請 書 類 等	留 意 事 項 等	発 行 先
① 授 業 料 免 除 願 (所 定 様 式)	理由は具体的に記入のこと	入学手続きの時に渡す入学者の手引に添付してある。
② 身 上 調 書 (所 定 様 式)	記入もれのないよう留意すること	同 上
③ 所 得 証 明 書 (所 定 様 式)	就学者を除く家族全員の名前を記入し，昭和63年の所得について証明してもらうこと。	市区町村役場

- (2) その他の添付書類

次の表の1～13に該当する者は，各証明書を添付すること。

	該 当 事 項	添 付 証 明 書	発 行 先
1	平成元年1月以降勤務先をかえた者及び新しく就職した者	源泉徴収票（元年分）の写	勤 務 先
2	平成2年1月以降勤務先をかえた者及び新しく就職した者	年収見込証明書又は月収明細書	勤 務 先

該 当 事 項	添 付 証 明 書	発 行 先
3 平成元年1月以降新たに給与所得以外の所得が生じた者	確定申告書（元年分）の写	税務署へ提出した写
4 平成元年4月から平成2年3月までの間に学資負担者が死亡した場合	所籍謄本又は死亡診断書、死亡した時点までの所得証明書（源泉徴収票の写）、退職金、退職一時金証明書、保険金証明書	市区町村役場又は医師、元勤務先、保険会社等
5 平成元年4月から平成2年3月までの間に本人若しくは学資負担者が風水害等の災害にあった場合	罹災証明書、保険金証明書	警察署、消防署又は市区町村役場、保険会社等
6 家族に年金・恩給受給者がいる場合（70歳以上は全員）	元年の受給額通知書の写	
7 生活保護を受けている世帯の場合	生活保護被保護者証明書（扶助料額を記入してあるもの）	社会福祉事務所
8 学資負担者が無職である場合	無職証明書	市区町村の民生委員
9 家族に雇用保険金を受けている者がいる場合	雇用保険金受給証明書	職業安定所
10 家族に障害者がいる場合	障害者手帳の写	
11 家族に出願時現在長期療養中（6ヵ月以上）の者がいる場合（医療費がかからない場合は該当しない。）	診断書及び医療費支払証明書	病院、医院
12 家計支持者が別居（単身赴任等）している場合	別居先での住居費・光熱費の領収書	
13 出願時現在6ヵ月以内に臨時的な所得（退職金、保険金、資産譲渡による所得等）がある場合	退職金・退職一時金、証明書、保険金証明書等	元勤務先・保険会社等

3 免除の額について

上記1の(1)、(2)及び(3)の事由に該当する者は、願い出により納付すべき前期授業料の全額又は半額が免除されることがある。

4 免除の願書出願について

前期分の授業料免除の出願については、平成2年3月26日から4月7日までに教養部学生係へ提出すること。

受付期間は、午前9時から午後5時まで、ただし、土曜日は正午まで（日曜日は受付しない。）とする。

5 注意事項

- (1) 免除申請希望者は、入学手続期間中に授業料を納付しないこと。（納付した場合は免除申請できない。）
- (2) 免除申請した者は、選考の結果が発表されるまで授業料の納付を猶予されるので納付しないよう注意すること。（納付した場合は免除されない。）
- (3) 免除されなかった者又は半額免除になった者については、その決定があった後すみやかに授業料を納付しなければならない。
- (4) 納付がないときは、除籍になるので注意すること。

4 奨学制度について

日本育英会には、学業成績が優秀で、経済的理由により学資支弁の困難な学生に対し、選考の上、次のとおり奨学金を貸与する制度〔第一種奨学金（無利子貸与制度）と第二種奨学金（有利子貸与制度）の2本立て〕がある。

- 自宅通学 月額 29,000円
- 自宅外通学 月額 35,000円

本学では、全学生の約25.6%（平成元年9月1日現在）の学生が日本育英会の奨学金の貸与を受けている。

なお、日本育英会のほか、地方公共団体、会社、財団などの奨学制度がある。

5 学 生 寮

本学には、北浜寮、泉学寮（以上男子寮）、白梅寮（女子寮）の3寮があり、いずれも鉄筋コンクリート4階建である。

居室は、1室2人収容で各室とも机、椅子、ベッド、本棚等が備えつけられており、各寮とも食堂、自炊室、浴室、娯楽室、洗濯室等が完備している。

収容人員は、男子590人、女子164人、計754人であり、平成2年度の新入生に対する募集は、男子約200人、女子約40人の予定である。

1ヵ月の寮生活費は、寄宿料720円、諸経費約13,000円（夕食費を含む）程度である。
入寮を希望する者は、入寮案内を、住所・氏名・郵便番号を記入した返信用封筒（定形の封

筒に62円切手を貼ったもの)を添えて、2月末までに請求すること。

○請求先 学生部厚生課厚生第二係 (〒920 金沢市丸の内1番1号)

入寮願の提出期限は、平成2年3月27日(火)であるが、市・区・町村長発行の昭和63年の所得証明書(源泉徴収票の写でも可)の添付が必要であり早めに準備しておくこと。

なお、入寮願の用紙は、入寮案内に同封して送付する。

6 下宿・貸間

下宿・貸間の紹介は常時行っているが、新入生のみを対象として、次の期間を設けている。

なお、期間以前は、公平を期するため紹介しない。

期 間 平成2年3月26日(月)

3月27日(火)

場 所 本学学生会館

金沢市丸の内1番1号

入居手続等

- 提示を見て、希望する下宿先等を選び係員に申し出ること。
- 紹介された部屋は、直ちに下見をすること。その場合には本学が発行する紹介状を持参すること。
- 入居条件などの契約については、大学は関与できないので家主とよく話し合った上で決めること。
- 入居先が決定するまで紹介をするが、1度に1件しか紹介しない。
- 入居決定の有無を速やかに厚生課厚生第二係へ必ず連絡すること。
- 学生寮へ入寮を出願した者には、その時点での下宿及び貸間の紹介は行わないが、入寮許可にならなかった時には、随時紹介をする。

参 考

下宿・貸間料は所在地、部屋、食事等の条件により異なるが、おおよそ次のとおりである。

量 数	下宿料(2食付)	貸 間 料	備 考
4.5 量	33,000~40,000円	10,000~14,000円	○下宿は電気料別 ○貸間は電気、ガス、水道料別
6 量	39,000~43,000円	13,000~16,000円	
8 量	40,000~43,000円	15,000~16,000円	

なお、入居希望者に十分対処でき得る下宿・貸間の数は確保されている。

7 アルバイト

学資の補助のためやむを得ずアルバイトをする学生のために、アルバイトのあつ旋を行っている。

ただし、新入生に対しては、学生生活に慣れるまでの約2ヵ月間はあつ旋しない。

1日当りの平均賃金は、事務4,000円~5,600円、軽労働4,000円~6,000円、重労働5,000円~7,000円、家庭教師は週2回で月20,000円~24,000円程度である。

8 保健管理センター

センターは、学生の保健管理に関する専門的業務を行うための施設として設置され、心身の健康の増進を図ることが目的です。

また、必要に応じて応急処置を行います。治療のための施設ではなく、積極的な健康の保持増進に主眼が置かれており、定期健康診断を始め健康相談、健康指導、学生相談等の業務をしております。

9 学生健康保険組合

この組合は、本学学生を対象とし、学生の健康保持及び疾病負傷について相互に救済することを目的としている。

本学の全学生が組合員となり、在学中、病気になったり負傷した場合は、必要な治療を受け、速やかに健康を回復して学業や研究に励むことができるように、学生の互助によってその医療費を救済し、各自の負担を軽減しようとするものです。

組合費は、年額2,000円で修業年限に応じてその全額を納入する。

給付には、医療給付と弔慰金があります。

医療給付

病気や負傷により診療機関(保険診療をする病院、医院、診療所など)で診療を受けた場合は、医療費総額の2.5割以内を組合員の請求に基づいて給付します。

ただし、年間1人に給付する最高限度額は40,000円です。

弔慰金

組合員が不幸にして死亡した場合は、10,000円が保証人に支払われます。

10 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、学生が教育研究活動中の急激かつ偶然な外来の事故によって身体に傷害を被った場合の救済措置として、全国の国・公・私立大学の学生を対象とした補償制度です。

この災害傷害保険は、学生の互助共済を基本としているため、本学では、全学生を加入することになっている。

11 卒業後の進路（昭和63年度卒業者）

平成元年度5月1日現在

区 分	学 部	文 学 部	教育学部	法 学 部	経済学部	理 学 部	薬 学 部	工 学 部	合 計
卒 業 者 数		132	279	182	179	134	81	426	1,413
就 職 希 望 者 数		108	260	160	172	76	50	283	1,109
就 職 決 定 者 数		108	225	160	172	75	49	282	1,071
就 職 率 %		100	87	100	100	99	98	100	97
農 業									
林 業 狩 猟 業									
漁 業 水 産 養 殖 業									
鉱 業									
建 設 業		1	2	5	7			26	41
製 造 業	食料品たばこ製造業	1		2	1	2		4	10
	織 維 工 業			2	3			6	11
	衣服その他繊維製造						2		2
	出 版 印 刷	3	6	4	1			6	20
	化 学 工 業		1	1	1	12	25	19	59
	石油石炭製品製造					1		4	5
	鉄 銅 業				2			2	4
	非 鉄 金 属 製 造	1		1	2	1			5
	金 属 製 品 製 造					3		8	11
	一般機械器具製造	1		1	1	3		22	28
	電気機械器具製造	2	2	9	10	4	2	70	99
	輸送用機械器具製造	1			2	1		17	21
	精密機械器具製造	1		4	12			13	30
	その他の製造業	1	4	4	6	2		13	30
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業			1	3	1			7	12
運 輸 通 信	運 輸 業	5		10	5			6	26
	通 信 業	1		2	9	1		2	15
卸 小 売 業	卸 売 業	4		6	10	2		7	29
	小 売 業	10	5	6	4	1			26
金 融 保 険 業	銀 行 信 託 業	3	1	24	36	3			67
	証 券 商 品 取 引 業	2		3	4				9
	保 險 業			6	8				14
	その他の金融保険	2		4	3				9
不 動 産 業				1					1
マ ス コ ミ	新 聞 ・ 出 版	1	1	1	3	1			7
	ラ ジ オ ・ テ レ ビ	2		2					4
サ ー ビ ス 業	医 療 保 健 業						12	1	13
	法 務			1					1
	教 育	21	150	2	1	22	1	1	198
	宗 教		1						1
	非 営 利 的 団 体	1	5						6
	その他のサービス業	28	33	9	11	11		24	116
公 務	国 家 公 務	4	3	16	6		1	1	31
	地 方 公 務	12	10	31	23	5	5	22	108
そ の 他							1	1	2
小 計		108	225	160	172	75	49	282	1,071
大 学 院 進 学 等		24	54	22	7	59	32	144	342
合 計		132	279	182	179	134	81	426	1,413

〔金沢大学案内〕

〔金 沢 大 学 案 内〕

金 沢 大 学 案 内

本学の概要

金沢大学は、昭和24年5月31日法律第150号国立学校設置法が公布され、従前の勅令によって設置されていた第四高等学校、石川師範学校、石川青年師範学校、金沢高等師範学校、金沢医科大学、金沢医科大学附属医学専門部、金沢医科大学附属薬学専門部及び金沢工業専門学校を包括し、法文学部、教育学部、理学部、医学部、薬学部及び工学部の6学部をもって設置された。更に、昭和55年4月には、法文学部の拡充改組により、文学部、法学部及び経済学部が新たに設置され計8学部となった。

大学院については、昭和30年に医学研究科（博士課程）が設置され、その後、昭和38年理学研究科（修士課程）、昭和39年薬学研究科（修士課程）、昭和40年工学研究科（修士課程）、昭和46年法学研究科（修士課程）、昭和47年文学研究科（修士課程）、昭和57年教育学研究科（修士課程）、昭和59年経済学研究科（修士課程）、昭和62年自然科学研究科（後期3年博士課程）が設置された。

専攻科には、特殊教育特別専攻科が、別科には、養護教諭特別別科がそれぞれ設置されている。

なお、金沢大学は、創造と総合の学府を目指し、医学部、医学部附属病院及び教育学部附属学校を除き、丸の内の城内地区から南東へ約4キロメートルの角間地区へ総合移転することになっており、まず平成元年秋の文学部・法学部・経済学部の3学部の移転に始まり、順次各部局が移転する予定で計画が進められている。

学部	文学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	合計
定員	2	3	4	9	14	9	14	57
入学者	2	3	4	9	14	9	14	57
卒業生	2	3	4	9	14	9	14	57
在学者	2	3	4	9	14	9	14	57
教職員	2	3	4	9	14	9	14	57
施設	2	3	4	9	14	9	14	57
その他	2	3	4	9	14	9	14	57
小計	108	225	160	172	25	39	282	1,071
大学総計	24	54	23	7	59	32	134	342
合計	132	279	182	179	134	51	416	1,413

教養部、学部及び大学院の概要

暗学文

教 養 部

本学の修業年限は4年（医学部は6年）で、最初の1年半（医学部は2年）は教養部において一般教養課程を履修し、その後それぞれの学部に進学し、専門教育課程を履修することになっている。教養部は一般教育の理念にしたがい、高度の教養を身につけるために設けられたもので、専門教育課程への単なる準備教育ではなく、一般的教養をそなえた判断力と批判力に富む人間を育成することを目的としている。

教養部には、次の科目がある。

一般教育科目

- （人 文 系） 哲学、倫理学、歴史学、文学、西洋古典学、音楽、美術
- （社 会 系） 日本国憲法、法学、政治学、経済学、社会学、心理学、地理学
- （自 然 系） 数学、物理学、物理学実験、化学、化学実験、生物学、生物学実験、地学、地学実験、力学、図学
- （総合科目） 文化人類学、統計学、科学技術文化史、朝鮮文化

外国語科目

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、西洋古典語（ラテン語、ギリシャ語）

保健体育科目

保健体育講義、保健体育実技

基礎教育科目

放射線物理学、体液生理学、一般生理学、人体発生学、細胞・組織学、生体物質の化学
日本語科目及び日本事情に関する科目（外国人留学生対象）

文学部

本学部は、旧第四高等学校を母体に昭和24年金沢大学法文学部文学科として発足して以来、逐年充実され、昭和55年4月法文学部哲学科、史学科及び文学科を発展的に再編成して、新しく創設された学部である。本学部には、行動科学科、史学科及び文学科の3学科が設置されている。

文学部は、人文社会諸科学の長足の進歩に即応し、人間教育に対する社会的要請に応じて、新しい研究教育組織を確立し、総合的かつ専門的知識を身につけた人材を養成することを目的としている。

本学部専門課程においては、各学科所定の授業科目の単位を修得するほかに、卒業論文（行動科学科においては、卒業論文又は特別演習）が課される。

文学部（行動科学科、史学科、文学科）における卒業生は、教育職員、公務員、出版報道関係などに就職し、活躍している。また、大学院への進学者も多い。

なお、昭和47年に大学院文学研究科（修士課程、哲学専攻・史学専攻・国文学専攻・英文学専攻・ドイツ文学専攻の5専攻、入学定員28名）が設置されているが、文学部の創設に伴い、更に整備充実が進められる計画である。

行動科学科

行動科学科には、実験行動学、差異行動学、社会行動学、動態社会学、文化人類学、比較文化学及び行動科学基礎論の各講座が設置されている。

行動科学科においては、行動諸科学の基本的知見を履修する一方、各自の関心に応じて、以下の五つのコースのいずれか一つを選択し、各コースのカリキュラムを中心的に履修することになっている。

各コースごとの定数を志望者数が超える場合には、選考の上、履修コースを決定することがある。

各コース名、各コースを担当する講座及び各コースごとの主な授業科目は、次のとおりである。

（心理学履修コース）

行動の基礎としての認知・学習等、あるいは、パーソナリティ・行動病理等を研究する。

〔講座〕 〔主な授業科目〕

実験行動学 { 心理学概論、応用心理学概論、行動学研究法
差異行動学 { 心理検査法、心理学実験

（社会学履修コース）

社会調査の技法を用いて、対人関係・集団・コミュニティ等、あるいは社会移動・コミュニケーション・社会病理等を研究する。

〔講座〕 〔主な授業科目〕

社会行動学 { 社会学概論、社会学史、社会調査
動態社会学 { 社会調査実習

（文化人類学履修コース）

民族・社会の慣習や制度等の調査と分析を通して、文化の構造と機能を研究する。

〔講座〕 〔主な授業科目〕

文化人類学 文化人類学、人類学、文化人類学調査実習
（比較思想履修コース）

異なった文化、特に思想・宗教の相互接触や交流等を研究する。

〔講座〕 〔主な授業科目〕

比較文化学 文化構造論、思想と文化、宗教と文化

（哲学履修コース）

諸科学の論理的・認識論的・行為論的な基礎を問い、その発展に寄与してきた哲学思想を考察する。

〔講座〕 〔主な授業科目〕

行動科学基礎論 哲学概論、哲学史、論理学

以上の外に、行動科学全般への理解を深めるための行動科学序論と、各講座ごとの個別テーマを詳説する特殊講義、それらについての自主的学修能力を養うための演習が開講される。

史学科

史学科には、日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学、地理学及び地誌学の各講座が設置されている。

史学科においては、日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学及び地理学の各概説並びに史学概論など基本的知識を総合的に履修する一方、各自の関心に応じて、以下の五つのコースのいずれか一つを選択し、各コースのカリキュラムを中心的に履修し、更に古文書、中国史料、欧米語の文献史料の講読研究、遺跡の発掘、文化財調査、地域文化の調査、地理実地研究などを通して専門的知識を深めることとしている。

各コースごとの定数を志望者数が超える場合には、選考の上、履修コースを決定することがある。

各コース名、各コースを担当する講座及び各コースごとの主な授業科目は、次のとおりである。

（日本史学履修コース）

〔講座〕 〔主な授業科目〕

日本史学 日本史学概説、日本史学特殊講義、日本史学演習

（東洋史学履修コース）

〔講座〕 〔主な授業科目〕

東洋史学 東洋史学概説、アジア諸地域史、東洋史学特殊講義、東洋史学演習

（西洋史学履修コース）

〔講座〕 〔主な授業科目〕

西洋史学 西洋史学概説、西洋史学特殊講義、西洋史学演習

（考古学履修コース）

〔講座〕 〔主な授業科目〕

考古学 考古学概説、考古学特殊講義、考古学演習、考古学実習

（地理学履修コース）

〔講座〕 〔主な授業科目〕

地理学 { 地理学概論、自然地理学概説、地域論、地誌、地理学特殊講義、
地誌学 { 地理学演習、地理学実習、地域調査実習

文学科

文学科には、国語学、国文学、中国語中国文学、イギリス文学、アメリカ文学、英語学、ドイツ文学、ドイツ語学、フランス語フランス文学及び言語学の講座が設置されている。

文学科においては、文学全般に関する文学概論又は言語学概論を履修する一方、各自の関心に応じて、以下の六つのコースのいずれか一つを選択し、各コースのカリキュラムを中心に履修することになっている。

各コースごとの定数を志望者数を超える場合には、選考の上、履修コースを決定することがある。

各コース名、各コースを担当する講座及び各コースごとの主な授業科目は、次のとおりである。
(国語国文学履修コース)

国語学と国文学に大別される。国語学は、日本語の原理法則を解明する学問であり、音韻、文法、意義の三つに分けられる。国文学は、古今の日本文学を文献学を基礎として、更に文芸学的、歴史社会学的及び民俗学的な諸方法をも加え研究するものである。その外、日本における漢文学など比較文学の研究も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は、次のとおりである。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

国 語 学 国語学概説、国語学史、国語学特殊講義、国語学演習
国 文 学 国文学概説、国文学史、国文学特殊講義、国文学演習

(中国語中国文学履修コース)

中国語学と中国文学に大別される。中国語学は、中国語の原理法則を解明する学問であり、中国文学は、古今にわたる中国文学を研究する。

中国語学及び中国文学の諸分野の研究を通して、中国文化一般に関する専門的知識の修得につとめる。更に外国人教師による実際の指導も行われる。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

中国語中国文学 中国文学概説、中国文学史、中国語学概説、中国文学特殊講義、中国語学特殊講義、中国文学演習、中国語学演習

(英語英米文学履修コース)

英語・英米文学の研究を通して、英米の文化一般に関する研究と教育が行われる。各作家、作品の個別的研究と演習など文学研究のほか、英語の理論と歴史に関する講義、演習、更に外国人教師による実際の指導、LL装置による訓練も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は、次のとおりである。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

イギリス文学 英文学史、英文学特殊講義、英文学演習
アメリカ文学 米文学史、米文学特殊講義、米文学演習
英 語 学 英語学概説、英語学特殊講義、英語学演習

(ドイツ語ドイツ文学履修コース)

ドイツ語・ドイツ文学の研究を通して、ドイツの文化一般に関する研究と教育が行われる。各作家、作品の個別的研究と演習など文学研究のほか、ドイツ語の理論と歴史に関する講義、演習、更に外国人教師による実際の指導、LL装置による訓練も行われる。

各講座が担当する主な授業科目は、次のとおりである。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

ド イ ツ 文 学 ドイツ文学史、ドイツ文学特殊講義、ドイツ文学演習
ド イ ツ 語 学 ドイツ語学概説、ドイツ語学特殊講義、ドイツ語学演習

(フランス語フランス文学履修コース)

フランス語・フランス文学の研究を通して、フランス文化一般に関する研究と教育が行われる。各作家、作品の個別的研究と演習など文学研究のほか、フランス語の理論と歴史に関する講義、演習、更に外国人教師による実際の指導も行われる。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

フランス語フランス文学 フランス文学史、フランス文学特殊講義、フランス文学演習、フランス語学概説、フランス語学特殊講義、フランス語学演習

(言語学履修コース)

言語学は、人間の「ことば」を対象とする学問であり、日本語を含む世界の諸言語の構造(音韻・文法・意味)の研究を中心に据えながら、地理的分布や社会的機能などの観点からも多面的にとらえようとする。本講座では、言語学概論及び音声学を始め、記述言語学や歴史・比較言語学の諸分野について個別にあるいは一般的に講ずる。また、コンピュータによる言語処理についての実習や、フィールド・ワーク(臨地調査)も行う。英・独・仏・中国以外の外国語も履修できるよう特殊語学も開講される。

〔講 座〕 〔主 な 授 業 科 目〕

言 語 学 言語学概論、音声学、言語学特殊講義、言語学演習、言語学実験実習、特殊語学(ギリシャ語・ラテン語・アラビア語・ヘブライ語・エチオピア語・その他)

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位の外に、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員普通免許状を取得することができる。

高等学校教諭一種免許状	{ 「社会」……(行動科学科、史学科)
中学校教諭一種免許状	

◆大 学 院 (修士課程)

	定員
文学研究科 哲 学 専 攻	6 名
史 学 専 攻	7 名
国 文 学 専 攻	6 名
英 文 学 専 攻	6 名
ドイツ文学専攻	3 名
計	28 名

教育学部

本学部は、人文・社会・教育・自然科学、工学、保健学、芸術、体育学等の各分野の専門の研究と指導を行い、広く教育界の各方面に活躍できる有能な人材を養成することを目的として、旧石川師範学校、旧石川青年師範学校、旧金沢高等師範学校を母体として昭和24年に金沢大学創設とともに発足した。

本学部には、小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、高等学校教員養成課程、聾学校教員養成課程、養護学校教員養成課程、言語障害児教育教員養成課程、総合科学課程及びスポーツ科学課程の8課程が設置されている。また、大学院については、昭和57年に教育学研究科修士課程が設置され、現在の10専攻に拡充されている。また、これに並行して博士課程の設置にも努めてきた結果、昭和62年に本学に大学院自然科学研究科博士課程が設置されている。この博士課程は、自然科学系各分野の修士課程を修了した者等を広く受け入れて、教育学部のみならず理学部、薬学部、工学部、教養部等の本学の自然科学系教官が一体となって教育と研究を行う、全国的にもユニークなシステムの博士課程である。

本学部では、すべての学生は、研究・指導のユニットとして設けられている「学生研究室」（教育・教育心理・国語・英語・歴史・地理・法経・哲学・社会科教育・数学・物理・化学・生物・地学・理科教育・音楽・美術・保健・体育・家庭・産業技術・聾教育・養護教育・言語障害児教育等）に所属して、卒業論文・卒業制作・卒業演奏等の指導を中心に、各課程所定の授業科目について指導を受けることができる。

本学部における主な授業科目は、次のとおりである。

〔教科に関する主な専門教育科目〕

- 国語科 一国語学概論、国語学演習、国文学講読、国文学演習、漢文講読、書道演習
- 英語科 一英語学概説、英語史概説、英米文学史、英文学演習、英作文・英会話
- 社会科 一平安時代史研究、日本近代史、西洋史概説、東洋史概説
一自然地理学、経済地理学、日本・世界地誌、都市地理学、地理学演習・実習
一憲法学演習、経済学原理、地域社会論、社会学
一哲学概論・特論・演習、倫理学概論・演習、倫理思想史
- 数学科 一代数学、解析学、幾何学、応用数学
- 理 科 一物理学概説、物理学実験
一物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、化学実験
一植物生理化学、動物生理学、分子遺伝学、生態学、生物学実験、生物学野外実習
一地質学、古生物学、鉱物学・岩石学、地学特論、地学実験、地学野外実習
- 音楽科 一ソルフェージュ、声楽(合唱を含む)、器楽(合奏を含む)、指揮法、音楽理論・音楽史
- 美術科 一絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論及び美術史
- 保健科 一学校保健、生理学、衛生学
- 家庭科 一栄養学、食品学、被服学、衣科学、育児学、住居学、家庭経営、家政学原論
- 技術科 一製図、木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、情報技術
- 職業科 一職業指導、産業概説、農業、工業
- 保健体育科 一体育原理、体育管理、競技運動、球技運動

〔教職に関する主な専門科目〕

教育史、教育方法、教育行政学

教育心理学、発達心理学、臨床心理学、社会心理学、特別活動論、生徒指導
道徳教育の研究、各教科教育法、保育内容の研究、教育実習

〔特殊教育に関する主な専門科目〕

聾教育科 一聴覚障害児教育概論、聴覚障害児心理学、聴覚障害児言語指導法、聴覚障害児教育実習

養護学校教育科 一障害児教育学、障害児心理学、障害児病理学、障害児教育実習
言語障害児教育学—養護学校教育科の科目のほかに言語病理学、言語障害学各論

〔総合科学課程の主な授業科目〕

文化科学コース：日本語論、日本文学史、西洋文学史、現代社会論、地域システム論、食生活文化論、生活経済学、英語論、英米文学、英語史

自然科学コース：情報数学、情報処理、ソフトウェア論、物理学特論、無機化学、生態学、遺伝子工学、環境地質学

人間科学コース：人間形成学、教育工学、人間行動学、発達障害学、産業教育論、衣装環境論、住居環境論

〔スポーツ科学課程の主な授業科目〕

生涯スポーツ論、実践スポーツ科学、基礎スポーツ科学、体育原理、体育経営、競技運動、球技運動

〔教育職員免許状〕

各課程において取得できる教育職員普通免許状の種類は、次のとおりである。

○小学校教員養成課程

小学校教諭一種免許状を取得することができる。なお、履修方法によっては、上記のほかに特定の教科の中学校教諭二種（努力すれば一種）免許状又は幼稚園教諭一種免許状取得の可能性もある。

○中学校教員養成課程

専攻する教科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得することができる。なお、履修方法によっては、上記のほかに、特定の教科の中学校教諭二種免許状又は小学校教諭二種（努力すれば一種）普通免許状取得の可能性もある。

○高等学校教員養成課程

高等学校教諭一種免許状（保健体育）及び中学校教諭一種免許状（保健体育）を取得することができる。なお、履修方法によっては、上記のほかに、特定の教科の中学校教諭二種免許状又は小学校教諭二種免許状取得の可能性もある。

○聾学校教員養成課程

聾学校教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状を取得することができる。

○養護学校教員養成課程

小学部は、養護学校教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状を取得することができる。

中学部は、養護学校教諭一種免許状並びに専攻する教科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得することができる。

○言語障害児教育教員養成課程

養護学校教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状を取得することができる。

○総合科学課程・スポーツ科学課程

この2課程については、目下特定の教科についての免許状を取得することができるよう検討している。

◆大 学 院（修士課程）

		定員
教育学研究科	学校教育専攻	10名
	国語教育専攻	5名
	社会科教育専攻	5名
	数学教育専攻	5名
	理科教育専攻	5名
	保健体育専攻	5名
	技術教育専攻	5名
	家政教育専攻	5名
	英語教育専攻	5名
	障害児教育専攻	5名
		計55名

◆大 学 院（博士課程）

自然科学研究科の項（87頁参照）に記載

◆専 攻 科

特殊教育特別専攻科 言語障害教育専攻 定員30名

法 学 部

本学部は、昭和24年金沢大学法文学部の法学科として創設されて以来、逐年充実され、昭和55年4月法学科を拡充し法学部として発足した。法学部には、法学科が設けられている。

なお、昭和46年には大学院法学研究科（修士課程、法律学専攻、定員15名）が設置されているが、法学部の発足に伴い、更に整備充実が進められる計画である。

卒業生については、司法試験合格者は創設以来すでに100名を超え、近時の合格者数は、国立大学中の上位に位置する状況である。また、国家公務員、地方公務員になる者は、近年30%余に上り、金融機関をはじめ民間一流企業への進出もいちじるしい。

I 講座組織……大講座制の採用

近時、公法や私法などの基幹的分野においてはもとより、経済法、社会保障法あるいは国際関係など新しい学問分野の発展もあり、法律学、政治学の専門的領域は、従前と比較し得ないほど格段に広範かつ多岐にわたっている。法学部においては、かかる研究教育領域の拡大深化と多様化に実質的に対応して十分な機能を発揮するため、研究教育体制については、大講座制を採用した。これは、従来の小講座が研究教育その他種々の面で、隣接講座との横のつながりに欠ける一面があったのを是正し、法学の高度の専門的研究教育とともに、総合性、多様性にも耐え得るものとして、法学の研究教育の水準を高めることを目的としている。

法学部においては、かかる観点から、下記の各特色を有する四つの大講座を置くとともに、主たる授業科目を開講している。

1. 公法大講座

憲法、行政法、国際法、刑法、刑事訴訟法、刑事学の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

憲 法 第 一 部	憲 法 第 二 部	外 国 公 法	行 政 法 第 一 部
行 政 法 第 二 部	行 政 法 第 三 部	行 政 学	国 際 法 第 一 部
国 際 法 第 二 部	国 際 組 織 法	刑 法 総 論	刑 法 各 論
刑 事 訴 訟 法	刑 事 政 策	特 別 刑 法	犯 罪 学
比 較 刑 事 法	各 演 習 等		

2. 民法大講座

民法、商法、経済法、民事訴訟法、労働法、社会保障法、国際私法の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

民 法 総 則	物 権 法・担保物権法	債 権 法 総 論	債 権 法 各 論
親 族 法・相続法	商法総則・商行為法	会 社 法	手形法・小切手法
保 險 法・海 商 法	経 済 法 第 一 部	経 済 法 第 二 部	国 際 私 法
民 事 訴 訟 法 第 一 部	民 事 訴 訟 法 第 二 部	民 事 執 行 法	倒 産 法
労 働 法 原 理	労 働 団 体 法	労 働 保 護 法	社 会 保 障 法 総 論
社 会 保 障 法 各 論	雇 用 保 障 法	各 演 習 等	

3. 基礎法大講座

法理学、法制史、比較法の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

法 理 学	日 本 法 制 史	西 洋 法 制 史	東 洋 法 制 史
-------	-----------	-----------	-----------

4. 政治国際関係大講座

政治学、政治思想史、国際関係論、政治社会学の各研究教育領域をおおう大講座である。

〔主な授業科目〕

政治学原論 政治過程論 政治思想史 国際政治史
国際関係論 政治社会学 各演習等

II 教育体制……二履修コース制と選択的論文指導制度の採用

法学部においては、主として法律関係の科目を必修又は選択必修とするコースⅠと、主として政治及び公法関係の科目を必修又は選択必修とするコースⅡの二つの履修コース制が設けられている。また、学生の志向の多様化に対応するとともに、より綿密な個人的指導による密度の高い教育効果を得るため、選択的論文指導制度を採用する。この二履修コース制、各科目の演習、選択的論文指導制度の活用によって、バランスのとれた専門教育であるとともに、多様化した学生の志向にも対応したきめ細かな専門教育の実をあげ得るよう配慮されている。

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員普通免許状を取得することができる。

高等学校教諭一種免許状

社会

中学校教諭一種免許状

社会

◆大学院（修士課程）

法学研究科 法律学専攻 定員15名

経済学部

本学部は、昭和40年に金沢大学法文学部経済学科として発足し、昭和55年4月に法文学部の改組・拡充に伴って創設された若々しい学部である。学部は、1学部1学科制で経済学科が置かれている。

なお、昭和59年に大学院経済学研究科（修士課程、経済学専攻、入学定員9名）が設置されたが、大学院の創設に伴い、更に整備充実が進められる計画である。

経済学部は、現代社会を社会経済的な側面から科学的・総合的にとらえるための社会経済諸科学の学問領域を研究教育することを任務としている。特に複雑な構造をもち、変化の激しい現代社会にあって、この社会の担い手としてますます求められている社会経済の専門知識を身につけた人材を養成する。

学生には、教養部における一般教養教育や本学部の基礎教育科目を土台にして、専門講義の自発的受講、演習での教官や学生相互の自由なディスカッションをつうじて、経済学の学識を深めるだけでなく、広く大学人としての陶冶をおこなう機会が与えられている。

卒業生の多くは、主として民間の企業で活躍しているが、国家公務員、地方公務員、公認会計士になる者や、あるいは教員免許状を取得して、中学校・高等学校社会科教員として教育界に進出している者も少なくない。

本学部経済学科には、教育研究組織として五つの大講座がおかれており、それぞれの大講座には特色のある多様な授業科目が開講されている。その概要は以下のとおりである。

1. 理論・計量経済学大講座

社会のいろいろな経済現象は、複雑な形態をとって相互に関連しているが、それを整理して体系的に関連づけるためには、経済学の基礎理論と計量的方法とが必要である。このような基礎理論と計量的分析とをもってますます複雑になる経済現象を体系的に究明するのがこの大講座である。

〔主な授業科目〕

経済原論 現代経済理論 近代経済学 計量経済学
統計学 数理統計学 経済統計学 経済変動論
技術論

2. 経済史学大講座

経済学は、ひろい意味での歴史科学であり、経済史学は、歴史認識に媒介された経済学研究である。この大講座では、歴史学における理論と実証を介して、経済学の成立過程を究明し、世界の諸地域における経済社会の歴史的生成とその展開を研究する。

〔主な授業科目〕

西洋経済史 日本経済史 中国経済史 比較経済史
現代日本経済史 経済学史 経済思想史 社会思想史

3. 応用経済学大講座

社会の経済現象を財政、金融、社会、労働、国際関係などの各分野において、それぞれの領域の理論と現実の両面から研究するのがこの大講座である。基礎理論並びに経済史学の応用としての性格をもっている。

〔主な授業科目〕

財政学 地方財政論 金融経済論 金融制度論

国際金融論 国際経済学 貿易論 世界経済論
社会政策論 社会保障論 労働経済論 労働運動史

4. 経済政策学大講座

経済学の基礎理論、経済史学、更に応用理論をも前提として、現代の経済社会における諸問題の科学的・合理的対策の方法と体系を確立する任務をもっている。特にこれまで軽視されてきた地域経済、環境問題、消費生活問題など国民の生活に密着した分野の研究にもとりくむ。

〔主な授業科目〕

経済政策原理 経済政策論 農業経済論 地域経済論
環境経済論 消費経済論 計画経済論 社会主義経済論
日本経済論 流通経済論 都市経済論

5. 経営・情報科学大講座

経営学は、産業社会における現実の企業を研究対象として体系化された学問である。企業の行動と政策及び情報処理にかかわる諸問題について、企業とそれを取りまく社会経済的環境との関連のもとに、理論的、歴史的、実証的に研究する。

〔主な授業科目〕

経営学総論 経営管理論 経営労務論 企業論
会計学原理 会計監査論 管理会計論 機械化会計
情報科学 システム理論 経営工学 工場計画論
電子計算機論 原価計算論 公会計論

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、次の種類・教科の教育職員普通免許状を取得することができる。

高等学校教諭一種免許状 社会
中学校教諭一種免許状 社会

◆大学院（修士課程）

経済学研究科 経済学専攻 定員9名

別に経済学部編集・作成の「金沢大学経済学部紹介」を用意しました。
入手を希望される方は返信用封筒（角形3号、250円切手をはり、郵便番号、住所、氏名を明記したもの）を同封の上、下記あて申し込んで下さい。
金沢大学経済学部学生係

〒920-11 金沢市角間町
TEL (0762) 64-5457 学生第三係

理 学 部

理学部は、1949（昭和24）年5月金沢大学の創設に伴い、旧第四高等学校及び旧金沢高等師範学校を母体として、数学、物理学、化学、生物学、地学の5学科で発足した。

その後、教育・研究の進展とともに講座数もすでに29に増加し、臨海実験所、低レベル放射能実験施設等の附属施設も設置されている。

1963（昭和38）年には、大学院修士課程として理学研究科（5専攻）が設置された。また1985（昭和60）年度から自然科学系各分野の修士課程を修了した者を広く受け入れ、理学部だけでなく、工学部、薬学部、教育学部、教養部などの自然科学系教官等が一体となって教育・研究を行うユニークな博士課程が発足した。

なお、コンピューター利用の増加に伴い、共通科目として電子計算機基礎論（実習を含む）が開講されている。

数 学 科

数学科は、数学解析、函数論、代数学、幾何学、応用数学、函数方程式の6講座から構成され、多方面にわたり数学の基本的な事柄や一般の理論の研究並びに教育が行われている。本学科では研究、勉学のために図書室の充実と整備及びその運営には特に力を入れており、単行本は、和書洋書合わせて20,000冊以上、論文雑誌は、国内国外発行のもの合わせて300種類以上に及んでいる。

学生に対しては、必修科目として位相数学、函数論、代数学、幾何学、実解析等の講義並びに演習が、学部へ進学した2年後期から3年前期にわたり行われる。これらは基本的で将来の発展に役立つ最小限度のものであるが、これだけでは内容が単調になったりかたよったりすることを考慮し、3年次と4年次には、いくつかの選択講義が行われている。また、4年次には各セミナーに分かれて輪講を行っている。

〔主な授業科目〕

数学通論、代数学、幾何学、解析学序論、函数解析学、実解析、函数論、整数論、統計数学、函数方程式論

以上の他に各講座に一つずつ特論が開講されている。

物 理 学 科

物理学科では、自然科学の基礎である物理学の基本的事項を修得し、将来基礎科学の分野を支え発展させる有為な人材を育成することに力をそそいでいる。専門課程では、この目的にそうよう学生は古典力学から始まり、量子力学、熱力学・統計力学、電磁気学等の講義と演習、現象を観測、検証する物理学実験等の科目を3年末までに履修し終り、この期間で物理学の体系についての手ほどきを受ける。最終学年では、選択科目の履修とともに各講座に配属され、それぞれの課題研究（実験やセミナー）において教官とひざを交えた教育をうける。このようにして基礎的学習の一層の充実と、更に分化発展しつつある諸分野での専門知識と活用力を身につける。

物理学科には、理論系として素粒子論、核物理、物性理論、実験系として結晶物理、物性物理、プラズマ物理、分子物理の各講座がある。理論系では、素粒子論、宇宙論、相転移や液体についての統計力学の理論や計算機実験等の研究、実験系では、金属・半導体・誘電体の物性、生命の起源と生体分子進化、生体高分子機能、核融合にも結びつくプラズマやイオン加速、レーザー及び核磁気共鳴による分子や固体の構造等についての実験研究と教育が進められている。

学生の進路は、上記の学習が生かされるような、大学院研究科への進学、企業における開発研究の部門や教育界への進出が主なものである。

〔主な授業科目〕

物理実験学、力学、電磁気学、熱力学・統計力学、物理数学、量子力学、流体力学、量子光学、原子物理学、素粒子論、物性物理学、生物物理学、プラズマ物理学、宇宙物理学

化 学 科

我々の身体をはじめ周囲のすべての物質、更に自然界を構成するすべての物質の本質とそこにひそむ基本原理を学ぶのが化学であり、化学科は、化学の最も基礎的な分野を学ぶ学科である。現代の化学はめざましい発展を遂げ、その研究分野の細分化が進んでいるが、本学科は、それに対応する7講座で構成され、整備された設備と充実した教官のもとで学生の教育と研究が行われている。

教育面においては、2年生後期から始まる専門教育での1か年半の講義(29科目)と基礎実験(7科目)を通じ、今日の化学全般にわたる基礎学習が行われ、4年生の1年間は、それぞれ希望する講座に配属して自主的な勉学態度と創造的能力の養成に重点をおいた指導のもとに課題研究と文献指導が活発に行われている。

研究面においては、分子および結晶構造、分子理論の研究(理論化学講座)、有機合成反応の開発と天然有機化合物の合成(有機化学講座)、無機化合物(主として金属錯体)の合成と化学反応、物性の研究(無機化学講座)、物質の分離、分析法、環境化学の研究(分析化学講座)、酵素、タンパク質化学の研究(生物化学講座)、核化学と原子核反応がかかわる宇宙地球化学・環境放射能の研究(放射化学講座)、遷移金属錯体の合成とその構造、反応性、光学活性に関する分光学的研究(錯体化学講座)などを中心とする創意に満ちた特色ある研究が活発に行われ、顕著な業績をあげている。また、他大学や本学の他学部、学科並びに附属施設(低レベル放射能実験施設、アイソトープ総合センター、情報処理センター等)や他大学を利用しての教育研究も盛んに行われている。本学科の卒業生は、本学又は他大学の大学院に多く進学し、また、一方では化学関連産業分野、官公庁において研究者、技術者、教育者として幅広く活躍している。

〔主な授業科目〕

理論化学、有機化学、無機化学、分析化学、生物化学、放射化学、錯体化学、化学文献指導、化学課題研究、各科目にわたる実験

生 物 学 科

生物学科は、現在5講座からなるが、これを大きく二つの系列に分けることができる。一つは植物生理生化学、動物生理化学及び発生生物学の諸講座に示される生理・生化学的学問の分野であり、いま一つは植物分類地理学及び生態学講座で示される自然史的学問の分野である。

近年の高分子化学や生化学の発展は、生命現象を分子のレベルで解明する道を開き、分子遺伝学を頂点とする新しい生命科学の展開をみているが、このような方向に沿ったのが前者の講座群である。一方生物学で忘れてならない方向として、自然の観察に始まる自然史的研究分野がある。これは、自然状態での生物の形態あるいは生態について、観察・実験の精度を高め、また系統について比較考察することによって生物を把握しようとするもので、このような方向に沿ったのが後者の講座群である。このように本教室は、現代生物学をバランスよく取り入れて構成されており、講義・演習や実習も変化に富み、恵まれた環境の中で勉学ができる。更に能登半島に理学部附属臨海実験所があり、海産生物の実習、研究が行われ、また、大学キャン

パス内に植物園があって、実験材料の供給のみならず、研究にも利用されている。

〔主な授業科目〕

植物分類・地理学、植物分類・地理学野外実習、植物生理学、系統動物学、生態学、生態学野外実習、生体エネルギー論、遺伝学、動物生化学、動物生理学、発生生物学、生物学文献指導、臨海実習、生物学課題研究

地 学 科

地学科は、鉱物学・地殻化学・地質学・物理地学の4講座から成る。本学科では、地球の生成並びにその発達過程や現在の構造、地球構成物質(種々の鉱物や岩石)の諸性質(原子レベルのミクロの性質を含む)とそれらの成因や生成後の変化過程、あるいは地球表層部及びその内部で発生する火山・地震・地殻変動など様々な現象や海洋底の諸問題を理解するため、固体地球科学の諸分野に関する基礎的な教育と研究が行われている。開講科目として、地質見学旅行や地質野外実習など地学科特有のものに加え、コンピュータに関する実習や理学英語など、自然科学を学ぶ上で不可欠な講義も受講できる。そして、地質学・鉱物学分野のみならず、地球科学における最近の進歩に対応して、地球物理学・地球化学・海洋科学などの諸分野を包含した最新の研究手法を習得する。本学科は、研究・教育の両面にわたり、とりわけ本学理学部の他学科や附属研究施設並びに国内外の諸研究機関との交流が密接であり、それらを利用する学生は少なくない。

本学科における主な研究課題としては、天然鉱物と人工鉱物の結晶構造や生成条件の解明、火山や地球深部における岩石やマグマの性質と成因に関する研究、放射性同位体を用いた岩石・化石・地層の年代測定に関する研究、化石による古環境の復元、地層の形成とその後の変化過程に関する研究、海洋底の構成と歴史、地球の熱学、ネオテクニクス、重力異常と地下構造解析、地球深部を構成する鉱物や岩石の物理的性質に関する実験的研究などがある。

卒業生は、本学あるいは他大学の大学院に進学する者も多いが、地質コンサルタント会社をはじめとする地学関連産業はもとより、セラミックスなどの材料科学関連産業、コンピュータ産業において技術者として、あるいは官公庁における研究者として活躍している。

〔主な授業科目〕

鉱物学、X線結晶学、岩石学、地殻化学、層位・古生物学、堆積学、地球変動学、地球物理学、地球発達史、応用地学、計算機地学、地学野外実習、地学数理演習、地学巡検、地学文献演習、地学課題研究

◆教育職員免許状

卒業に必要な単位のほかに、所定の「教職科目」等を履修した者は、それぞれの教科について次の種類の教育職員普通免許状を取得することができる。

高等学校教諭一種免許状	} …… {	「数学」…(数学科, 物理学科)
中学校教諭一種免許状		「理科」…(物理学科, 化学科, 生物学科, 地学科)

◆大 学 院 (修士課程)

	定員		定員
理学研究科	数 学 専 攻 12名	生 物 学 専 攻	10名
	物 理 学 専 攻 14名	地 学 専 攻	8名
	化 学 専 攻 14名		計58名

◆大 学 院 (博士課程)

自然科学研究科の項(87頁参照)に記載

医 学 部

医学部の前身は、遠く旧加賀藩時代の文久2年3月の彦三種痘所にその源を発し各学部中最も古い歴史をもっている。慶応3年の養生所、明治3年の医学館、明治12年金沢医学校、明治17年文部省指定石川県甲種医学校、明治20年第四高等学校医学部、明治27年第四高等学校医学部、明治34年金沢医学専門学校、大正12年金沢医科大学と幾多の変遷を重ね、昭和24年金沢大学の創設により医学部となり、附属病院、神経情報研究施設及び動物実験施設等の附属施設を有して現在に至っている。

医学部の修業年限は、医学進学課程は2年、専門課程は4年である。専門課程における4年間には、小立野の医学部と附属病院で前2年間に主として基礎医学を、後2年間に主として臨床医学の専門教育を行う。

前2年間における基礎医学の学修は、人体の構造組織・生理機能の正常状態を観察し、それが病的状態ではいかなる変化を起こすかを学び、また、それらの病的変化を起こす原因となる化学物質や微生物、更にその病的状態を正常化する薬物などの基礎的知識を学ぶ。また、特に系統解剖学実習は、故人の意志と遺族の善意によって医学教育のために献体されたものにより行われる。後2年間における臨床医学は、基礎的知識をもとにして実際に外来・入院の患者について指導を受け、討論を行うことによって臨床知識や経験を積み重ねる。いずれにしても医学教育は、人間の生命を扱い人権問題にからむ特殊条件を含むため、医学を志望する者はこの点十分留意する必要がある。

6年間の課程を修了した者は、医学士の称号が授与され、卒業後、医師国家試験に合格することにより医師の免許が得られる。

〔主な授業科目〕

解剖学、生理学、生化学、薬理学、病理学、微生物学、寄生虫学、衛生学、公衆衛生学、法医学、内科学、神経精神医学、小児科学、放射線医学、核医学、皮膚科学、外科学、整形外科学、脳神経外科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、産科婦人科学、麻酔学、臨床検査医学、歯科口腔外科学、特別講義（年度ごとに定める）

◆大 学 院（博士課程）

定員

医学研究科	生理系専攻	25名
	病理系専攻	11名
	社会医学系専攻	6名
	内科系専攻	17名
	外科系専攻	19名
		計78名

薬 学 部

薬学は、時代とともに変貌する疾病に対し、有効でかつ安全な医薬品を開発、創製、生産及び管理し、更に、自然科学を広く総合的に活用し、生命現象を探究する学問分野である。医薬品は、かつて難病、不治の病と言われた多くの疾病の予防、治療を可能にし、今日では人間の生命の維持、保健衛生や健康の増進のために欠かすことのできない貴重な人類の宝である。本学部は、このような薬学の理念を实践し、国民の健康増進、社会福祉の向上という社会的責務を担う医薬品専門家としての研究者及び技術者の養成を目的としている。

○ 薬学部の沿革

薬学部の歴史は、旧加賀藩時代の慶応3年養生所舎密局が設けられた時に源を発し、幾度かの変遷を経て大正12年に金沢医科大学附属薬学専門部となり、昭和24年5月金沢大学創設とともに薬学部として発足した。更に、昭和41年従来の薬学科に加えて製薬化学科が増設され、昭和44年には薬用植物園研究施設も附置された。また、大学院については、昭和39年に薬学研究科修士課程が設置された後、博士課程の設置に努めてきたが、昭和60年にいたって、本学部のみならず教育学部、理学部、医学部、教養部、がん研究所などの教官が一体となって学生の指導にあたる、全国的にもユニークなシステムの大学院博士課程が設置された。この博士課程は、修士課程を修了した者が更に勉学を続けるための3年の課程で、昭和62年4月に、金沢大学大学院自然科学研究科として独立した。

○ 薬学部における研究

本学部の両学科では、それぞれの理念に基づきライフサイエンス（生命科学）に関連する先端の知識・技術を駆使して、下記に例示する研究が行われ、その成果が教育に活かされている。

薬学 科：薬理活性化合物の合成と開発、生体成分分析法の開発、金属錯体の構造と機能、オルガネラから見た生体制御機構とその異常の解明、寄生虫疾患に有効な天然薬物の開発、糖及び糖質化合物の合成と薬理活性、平滑筋の収縮に関する比較薬理学、染色体DNAの複製開始及びその遺伝情報の発現調節機構、環境物質の分析法と動態など。

製薬化学科：天然有機化合物を利用した生理活性化合物の合成、薬剤の吸収・分布・代謝・排泄の機構、超高速分光による化学反応の動力学、含窒素複素環及び転移りボ核酸関連物質の合成と反応、クロマチンの構造と機能、放射線・薬剤等によるDNA損傷とその修復及び細胞がん化機構など。

○ 教育とカリキュラム

本学部におけるカリキュラムでは、専門課程における2年次の授業は、薬学の基礎学力をつけるために有機化学、物理化学並びに生物科学などの基礎的な科目を学科の別なく履修し、3年次の授業は、生物系、化学系、医療衛生系の3コースに分かれて受講することになっている。

生物系コース：諸々の物質と生体のかかわりを生物の側から深く考えるように設定されているコースで、薬学科の学生が履修できる。

化学系コース：生命にかかわりのある物質を化学的あるいは物理化学的側面から探究するコースで、製薬化学科の学生が履修できる。

医療衛生系コース：医療、公害、食品、環境衛生などの分野を専攻するコースで、いずれの学科の学生も履修することができる。

原則として3年次の授業は、この3コースに従って行われるが、いずれのコースに所属する者

も他系のコースの科目を履修することができるように時間割上の配慮が払われているので、他系の科目を選択受講することによって学生の志向に合致した勉学を行うことができる。また専門科目の実習に多くの時間がさかれており、基礎的な実験技術の修得にあてられている。

4年次は、学科にかかわらず数名の小グループとなって各研究室に所属し、具体的な研究テーマのもとに研究活動を行い、将来更に独自の研究を展開出来るように、また、自然科学的な考え方と技術を身につけたすぐれた薬学専門家となるように man-to-man の教育と指導が行われる。

授業科目は、次のとおりである。

必修科目：有機化学Ⅰ・Ⅱ、物理化学Ⅰ・Ⅱ、無機化学、薬学概論、機能形態学、分析化学Ⅰ・Ⅱ、生薬学、生化学Ⅰ・Ⅱ、解剖学、薬理学Ⅰ・Ⅱ、放射化学、薬用植物学、衛生化学Ⅰ、薬剤学Ⅰ、薬局方、薬事法

各コース別選択科目

生物系コース：分子生物学、生化学Ⅲ、生理学、推計学、医薬品化学総論、放射線生物学、細胞生物学、微生物学、毒性学、薬物治療学、衛生化学Ⅱ、薬剤学Ⅱ、内分泌学、免疫学

化学系コース：医薬品化学Ⅰ・Ⅱ、物理化学Ⅲ、合成化学、反応有機化学、生体成分化学、天然物化学、機器分析学、有機量子化学、錯体化学、立体化学、工業化学概論、化学工学概論、電子機器概論

医療衛生系コース：生化学Ⅲ、生理学、推計学、医薬品化学総論、公衆衛生学、環境衛生化学、微生物学、毒性学、薬物治療学、衛生化学Ⅱ、薬剤学Ⅱ、製剤学、調剤学、裁判化学、臨床化学、医薬情報学

○ 卒業後の進路

本学部の卒業生には、大学院へ進学して研究者、教育者となる者、国公立の行政・研究機関、保健所に就職する者、病院、薬局、製薬会社あるいは化学工業、化粧品、食品の業界へ進む者などがおり、その進路は多方面に及んでいる。

○ 資格

本学部卒業生には、学科の別なく薬剤師国家試験受験資格が与えられ、この試験に合格すれば薬剤師となることができる。

◆ 大学院（修士課程）

薬学研究科	薬学専攻	14名
	製薬化学専攻	12名
		計26名

◆ 大学院（博士課程）

自然科学研究科の項（87頁参照）に記載

工 学 部

本学部は、大正9年創設の旧金沢高等工業学校、旧金沢工業専門学校を母体とし、昭和24年の学制改革によって5学科により発足した。

その後、急速な科学技術の進歩とともに増学科、増講座など組織の充実が重ねられ、さらに、昭和58年度から昭和62年度にかけて従来の9学科1教室が統合改組されて、現在は土木建設工学科、機械システム工学科、物質化学工学科、電気・情報工学科の4学科及びその基礎的分野を担当する共通講座により構成されている。最近の工学は、一方では各専門分野の極度の専門化による発展と、他方では理学と工学並びに工学各専門分野の相互作用による進歩とがあることを認識し、本学部では、絶えずカリキュラムの内容刷新に努力し、学生諸君に新しい工学の基礎と、応用展開能力が身につくよう努力している。また、大学院については、昭和40年に工学研究科修士課程が設置され、その後も博士課程の設置に努めてきた結果、61年度に物質科学系、62年度にはシステム科学系の大学院自然科学研究科博士課程が設置されている。この博士課程は、自然科学系各分野の修士課程を修了した者等を広く受け入れて、工学部のみならず理学部、薬学部、教育学部、教養部等の本学の自然科学系教官が一体となって教育研究を行う全国的にもユニークなシステムの博士課程である。授業科目については要点のみ掲げるが、各学科の主な内容は以下のとおりである。

土木建設工学科

土木建設工学科は、六十余年の伝統を持つ土木工学科と昭和50年に都市環境を軸として新設された建設工学科とが、新時代に対応するため昭和60年度に統合した土木系学科である。

さて、土木建設工学は、人類の文化を支え、近代文明を推進してきた最も歴史の古い学問であり、かつ、安全で快適な国土づくり・都市づくりに寄与する技術者を育成することにより、未来の豊かな人間社会を築くための原動力となる学問である。それゆえ、土木建設工学は、人間の生活に密着した学問として、自然科学、社会科学、人文科学等のあらゆる分野と深い関連を持ちながら、広範囲かつ精緻に発展していかねばならない総合的工学である。

この認識に立ち、本学科では、近年社会的あるいは技術的にその必要性が高まっている土木建設系技術分野の拡充と発展、ハードとソフトの分野及び他の工学分野との連携を進めることにより、国土整備、資源開発、都市建設、運輸交通施設、環境保全、災害防止、居住環境整備、景観整備など、大地と海洋と人間社会を対象とした施設構造物の計画、設計、建設、運営、管理に携わる技術者の育成を行い、行政官（政府各省庁、各地方自治体）、公団や建設業技術者、コンサルタント、教育者、研究者等へと進む人材を養成している。

本学科は、構造工学、水工学、地象工学、都市施設計画学、環境衛生工学の5大講座で構成され、広い視野と広範な応用能力を持つ技術者の教育と養成を行っている。

〔主な授業科目〕

構造力学、水理学、土質力学、計画基礎数理、環境基礎科学、移動現象論、測量学、土木材料学、鉄筋コンクリート工学、建設機械施工法、地盤基礎工学、橋梁工学、河川・水文学、海岸海洋工学、上下水道学、道路工学、耐震耐風工学、防災水工学、動力学、都市計画、地域計画学、運輸施設工学、土木建設計画学、数理計画学、環境装置工学、電子計算機プログラミング、土木情報処理学、土木建設工学設計法、土木建設工学実験、卒業研究

機械システム工学科

機械システム工学は、常にあらゆる工業において基幹となってそれを支えている学問である。

近年の産業及び科学技術の発展に応じ、機械システム工学科は、大正10年創設の機械工学科、昭和35年創設・58年改組の生産精密工学科、昭和42年創設の機械工学第二学科の機械工学関連の3学科を、昭和62年に統合改組した古くて新しい学科である。

本学科は、主として設計分野に重点をおく機械解析講座（固体力学、機械力学、機械構造解析）、機械材料講座（金属材料、塑性工学）、機械設計講座（強度設計、要素設計、機構設計）の3大講座、主として生産分野に重点をおく自動機械システム講座（精密システム創造学、ロボット及び自動機械）、生産技術講座（計測・制御工学、精密システム材料学、トライボロジ）、生産システム講座（生産加工学、機械製造システム）の3大講座、そして主として動力分野に重点をおく機械回路講座（回路解析、機械制御）、エネルギー変換講座（熱移動、流体工学、熱・流体エネルギー変換）、エネルギー機械講座（熱機関、流体機械、動力システム）の3大講座、計3分野の9大講座で構成され、機械システム工学の全ての分野を網羅している。学生は、これら3分野に広がる多彩な授業科目群から希望と適性に応じ、基礎から応用までを幅広く選択できる。

旧3学科の卒業生の広い分野における活躍も目覚ましく、本学科は、創造性と応用性に富み、時代の進展に即応できる活力に満ちた多くの技術者・研究者の育成を目指している。

〔主な授業科目〕

材料力学、構造解析学、機械振動学、生物・人間工学、金属学、鉄鋼材料学、塑性学、新素材工学、機械要素設計、材料強度、機構運動学、繊維機械、精密機器設計学、自動機械、メカトロニクス概論、ロボット工学、計測工学、自動制御、材料機能学、トライボロジ、潤滑工学、基礎加工学、システム加工学、製造システム論、生産機械、切削加工学、制御工学、制御機器、伝熱工学、エネルギー変換工学、流体力学、熱力学、内燃機関、動力システム工学、流れ学、流体機械、機械システム設計製図、機械システム工学実験及び実習、計算機プログラミング演習、卒業研究

物質化学工学科

物質化学工学科は、工業化学科（大正10年創設）と化学工学科（昭和14年創設）が新しい時代の科学に十分貢献できるよう統合改組し、昭和61年度から発足した。

最近の化学に関する理論と技術の急速な進歩の恩恵を受けて、我々の実生活はますます豊かさを加えてきた。これは、いろいろな優れた働きを持つ新しい素材の発見とその生産プロセスの著しい改良と工夫、高度分離技術、エネルギー変換と有効利用技術、バイオテクノロジー、環境保全などの多岐にわたる分野での研究と技術開発のたまものである。そして今後これらの分野でも開発研究の重要さはますます増大していくであろう。

この社会的ニーズに答えるため、本学科は、従来の工業化学及び化学工学のそれぞれの学問領域に止まらず、幅広い視野と見識を持つ技術者や研究者の養成をめざし、物質解析講座（物質の構造や挙動の解明）、状態解析講座（平衡論・速度論などの物質の性状と挙動）、物質変換講座（反応の開発と制御並びにエネルギー変換の化学）、分離・混合プロセス講座（化学プロセスでの物質の分離・混合操作）、応用材料講座（機能に富んだ素材の開発）、エネルギー・環境講座（エネルギー、生物、環境などのプロセスの応用）の6大講座により学生の教育と研究を行っている。学生は専門課程進学後、化学を中心とした分野Ⅰ（物質解析、物質変換、応用材料）および物理学・化学の双方に関連した分野Ⅱ（状態解析、分離・混合プロセス、エネルギー・環境）の科目群から、いずれかの分野の科目を主に選択して履修し、きめ細かな教育・指導を受ける。

これまでの両旧学科の卒業生の活躍は広範囲にわたっており、化学工業のみならず、機械、エレクトロニクス、情報、医療・医薬品などの各産業の研究所、開発部門の他、官公庁にも及んでいる。大学院への進学志向も近年高まり、修士課程には、多くの学生が進学しており、更に、博士課程への道も開かれている。

人類のますます豊かな生活に貢献しようとしている物質化学工学科で、科学技術者としての遠大な夢を育て、実現されるよう期待している。

〔主な授業科目〕

物理化学、分析化学、熱力学、化学工学物性、移動速度論、有機工業化学、無機工業化学、エネルギー資源化学、分離操作、流体工学、精密分離工学、材料科学、高分子化学、バイオマテリアル、反応工学、伝熱工学、環境動態解析、化学プロセス設計法、物質化学工学実験、卒業研究

電気・情報工学科（電気・電子・情報系）

近年、マイクロエレクトロニクス、電子計算機、通信システム等における急速な技術革新により新しい産業構造や社会形態を作られつつある。電気・情報工学科はこれらの最新技術を効率よく教育し、かつ独創的研究を促進するため、電気工学・電子工学・情報工学の各分野を包含した学科である。2年次では各分野共通の基礎的学問を重点的に修得し、3年次からは各自の希望に応じて学問分野を選択できる。卒業研究は、教官の指導のもとに行っており、大学院生と共同で世界先端の研究テーマに挑む学生も少なくない。本学科の一つの特色は、研究活動が活発なことであり、半導体物性、半導体素子、集積回路、半導体レーザと光通信、デジタル計算機システム、情報処理、自動制御システム、ロケット・衛星を利用した超高層計測、超音波やマイクロ波及びレーザを応用した計測、光ファイバーによる計測及び通信、電力伝送及び電力変換などの分野で幾多の研究成果をあげて来ている。卒業生は、電気、電子、情報産業を中心に広い分野で活躍している。

なお、本学科は、電子物性、電子デバイス、電子回路、計測・制御、電気エネルギー、計算機工学、情報伝送の7大講座で構成され、本学科に関連した電気エネルギー変換実験施設も工学部に附置されている。

〔主な授業科目〕

電気回路、電子回路、電気磁気学、電磁測定、論理回路、制御理論、電気エネルギー変換工学、電気エネルギー伝送工学、磁気工学、高電圧工学、気体・プラズマ工学、電気機器学、半導体工学、量子力学、電子物性、電子デバイス、光波工学、電気電子材料、集積回路工学、デジタルシステム、電子計算機、オペレーティングシステム、計算機言語論、情報理論、パターン理解、画像工学、信号処理、電気音響工学、伝送回路、光・マイクロ波伝送、電波工学、通信方式、情報ネットワーク、電気・電子・情報工学実験、卒業研究

共通講座（基礎工学教室）

本学部には、以上の各学科に共通する基礎科目を担当するため数理科学及び材料科学の2大講座がある。

〔主な授業科目〕

工業数学及び演習、応用解析及び演習、工業力学、熱・統計力学、固体物理学、量子物理学、情報数学、情報処理工学、計算機概論、数値解析、数理計画学、確率統計、高分子材料学、信頼性工学

◆教育職員免許状

工業教員養成課程の学生は、全学科所定の授業科目以外に職業指導4単位を必ず履修しなければならない。これにより高等学校教諭一種免許状(工業)が取得できる。(卒業後教員になる義務はない。)

工業教員養成課程以外の者でも職業指導4単位を履修した者は、高等学校教諭一種免許状(工業)が取得できる。

◆大 学 院 (修士課程)

	定員
工学研究科 土木建設工学専攻	10名
機械工学専攻	14名
工業化学専攻	10名
化学工学専攻	10名
電気・情報工学専攻	20名
精密工学専攻	8名
機械工学第二専攻	8名
計	88名

◆大 学 院 (博士課程)

自然科学研究科の項(87頁参照)に記載

大学院自然科学研究科

◆大 学 院 (博士課程)

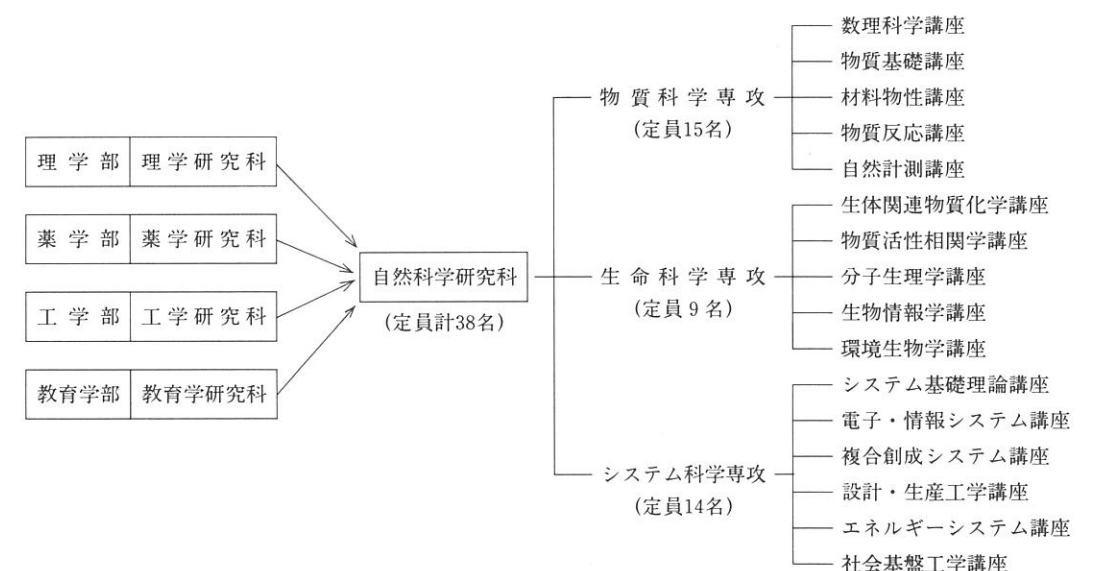
大学院自然科学研究科は、大学院修士課程(2年)を修了した者(※1)が、更に高度な専門知識と自立した研究能力の修得を目指して勉学する大学院博士課程(3年)である。この研究科は、今日の自然科学が進歩するには、ますます多くの研究分野の知識や相互協力が必要になってきていることから、専門知識はもとより関連分野にも広い知見をもった応用力豊かな人材を養成することを目的として、昭和62年に本学に設置された。この研究科を修了した者には、博士の学位(※2)が与えられる。

この研究科の教育研究には、本学の理学部、薬学部、工学部、教育学部、教養部などから多数の自然科学系教官が参加しており、それら多数の専門分野が総合され、協力しあって上記の目的にふさわしい教育方法をとっている。この形の大学院博士課程が、ときに総合大学院とよばれるのは、このためである。

この研究科には、次の3専攻(16講座)が置かれている。上記の学部等から、それぞれの修士課程に進み自然科学の基本を修めた者は、自分に最も適した専攻(講座)を選んで入学することができる。

学 部 修士課程

博士課程



この研究科は、本学以外の大学院修士課程修了者にも広く門戸を開いており、また社会人(※3)や外国人留学生も積極的に受け入れている。

※1 大学卒業後、修士課程に進まず就職した者などが、職場での研究活動等で修士課程修了者に匹敵する業績をあげているときは、自然科学研究科の入学の出願資格を認める場合がある。

※2 学術博士を授与する。ただし、学位論文及び履修した授業科目の内容によっては、理学博士、薬学博士、工学博士のいずれかを授与する。

※3 在職のままで入学することが可能な場合がある。

テレフオンサービスについて

下記のとおり電話による情報提供を行う。

電話番号 0762(21)7700
(通話料金は有料)

- 1 平成元年11月1日～平成2年1月21日
 - 募集要項の請求方法
 - 募集要項の内容
 - その他の情報
- 2 平成2年1月22日～平成2年2月2日
 - 出願状況
各学部・学科(課程)毎の、志願者数及び倍率
- 3 平成2年2月3日～平成2年3月27日
 - 2段階選抜について
 - 合格発表について
 - 入学手続きについて
 - その他の情報
- 4 平成2年3月28日～平成2年4月3日頃
 - 追加合格について
- 5 平成2年4月4日頃～
 - 平成3年度入学者選抜に関する要項について
 - その他の情報

この学生募集要項を希望する者は、返信用封筒(角型3号, 360円切手をはり付け, 受信者の郵便番号, 住所, 氏名を明記したもの)を同封の上, 下記あて申し込むこと

〒920 金沢市丸の内1番1号
金沢大学学生部入学主幹付入学試験係
TEL (0762) 62-4281 内線290